

テ働クヲ欲セス

然レモ「スレイマンパシヤ」ハ其部下ノ兵二千五百人ヲ率ヒ道路ナキ点ニ於テ

Suleiman pacha

「バルカン」山ヲ踰ユルニ決ス是レ「メヘメーアリ」ハ其部下ノ將士ト爭論スル

Mehemet Ali

ノ煩ナルニ倦ミ己ニ退却セシノ時ナリ

「スレイマンパシヤ」ノ軍隊ハ魯國第八軍團ノ左翼即チ「エレナ」ノ東方「マリ

Suleiman pacha

Elerna

Mari

アン」ニアル魯軍ニ衝突ス

an

「メヘメーアリ」ノ爲メニ援助トナルヘキ運動ヲ「スレイマンパシヤ」ノ爲セシ

Mehemet Ali

Suleiman pacha

ハ唯此一アルノミ然レモ時期既ニ晚シ

此ニ至テ魯軍總督ハ是レ迄遞減セシ勇氣ヲ漸次遞加スルノ期ニ會セリ

土軍ハ天與ノ幸運ヲ徒ニ放棄セリ魯軍ノ内地ヨリ來ル増兵ハ日一日ヨリ近接

ス實ニ土軍ノ事ヲ爲スハ魯軍「ダニユーブ」河ヲ渡リ其兵力ヲ分離セシ時ニ

Danube

在リ

即チ土軍ノ事ヲ爲スハ八月ニ於テ容易ニシテ九月ニ於テハ稍困難トナリ十月
ニ於テハ全ク爲シ得サルニ至リシナリ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第九回 明治廿一年四月廿日

前ニ論セシ如ク魯軍「ダニユーブ」川ヲ渡ルヤ先ツ其軍隊ヲ集結シ以テ土軍ノ
各個ヲ各別ニ撃破スヘキナリ土國ノ本軍ハ四角要塞ノ掩護ニ依テ其内部ニ閉
居セリ故ニ先ツ撃破スヘキハ「バルカン」南方「スレイマンパシヤ」ノ軍隊カ
或ハ之ヲ爲スニ最モ容易ナル「プレブナ」ノ「サスマンパシヤ」ノ軍隊ナリ而シ
テ其孰レヲ撰ムヘキヤハ魯軍ノ任意トス
Plevna Balkan Suleiman Pacha Osman Pacha

魯軍若シ「プレブナ」ヲ攻撃セントセハ如此廣正面ヲ領ス可ラス魯軍ハ三方向
ノ敵ニ對シテ正面シ其軍隊ヲ分離セシカ爲メ本國ヨリ増援兵ノ來着スル迄守
勢ヲ取ラサル可ラサルニ至レリ
Plevna

此間「メヘメーアリ」ハ土國本軍ヲ率ヒ「ジャントラ」河孟ニ向テ魯軍ノ爲メニ
最モ危険ナル攻撃ヲ爲セリ而シテ魯軍ハ反テ「プレブナ」第三ノ攻撃ヲ爲シテ
失敗ス
Mehemet Ali Janta Plevna

此時ニ當リ土將「オスマンパシヤ」之ヲ追撃セス「メヘメーアリ」亦タ四角要塞内ニ退去ス故ニ魯軍ハ不幸中ニ饒倖ヲ得タリ「シプカ」岫ニ對スル土將

「スレイマンパシヤ」ノ攻撃ヲ支保シ得シモ亦大幸ト云フヘシ

之レニ因テ觀レハ魯軍ノ働作中一部ハ其當ヲ得シモノアルカ如シ然レモ是レ魯軍ノ求メテ爲セシニ非スシテ土軍ヨリ附與セラレシモノナリ

土軍ノ失策トスヘキモノ亦タ多シ即チ左ノ如シ

其一 土將「スレイマンパシヤ」ハ他ニ迂迴シ得ル道路ノアルニ關セス「シプカ岫ヲ強攻セシモノ是レナリ」

其二 「オスマンパシヤ」ハ能ク魯軍ノ攻撃ニ對シテ常ニ利ヲ得而シテ毎ニ之ヲ追撃セス却テ「プレブナ」内ニ駐止セリ

其三 土軍總督「メヘメーアリ」ハ一致ノ合力ヲ以テ勇敢ナル攻勢ヲ取ラサリシ是レ最モ大ナル過失ナリ

「オスマンパシヤ」ハ能ク魯軍ノ攻撃ニ對シテ常ニ利ヲ得而シテ毎ニ之ヲ追撃セス却テ「プレブナ」内ニ駐止セリ

「シプカ」

「プレブナ」

「メヘメーアリ」

「シプカ」

然レモ「メヘメーアリ」ノ過失ハ稍恕スヘキモノアリ諸將官ノ不和及ヒ本軍ノ三分ノ一ハ埃及軍ヨリ成ルノ二事是ナリ

埃及軍ノ怯懦ナリシハ其後三年ニ於テ英國ト戰ヒシ時ヲ以テ証スルニ足ル實ニ英軍ハ十二三人ノ死傷ヲ爲セシノミニシテ埃及軍ヲ撃破スルヲ得タリ故ニ

「メヘメーアリ」カ埃及軍ヲ用ユルニ足ラスト爲セシハ不當ニ非サルナリ

「メヘメーアリ」ノ苦慮セシハ帝ニ其部下ノ不遜ナルノミナラス「コンスタンチノツプル」ニ於テモ亦同氏ニ反對セントスルノ黨派アリシニ因レリ

或謂フアリ埃及王ハ隱ニ賞ヲ懸ケテ「メヘメーアリ」ニ反對セシメシト

已ニ述フルカ如ク「メヘメーアリ」ハ九月下旬ニ於テ攻撃運動ヲ廢止セリ其理由トスルモノ左ノ如シ

一「メヘメーアリ」ハ魯國近衛軍團ノ已ニ戰地ニ近邇セルヲ聞知ス故ニ慢ニ攻勢ヲ取レハ終ニ優勢ナル敵ニ出會シ其勝取得テ期ス可ラサルニ至ラン又西

勢ヲ取レハ終ニ優勢ナル敵ニ出會シ其勝取得テ期ス可ラサルニ至ラン又西

方「オスマンパシヤ」ハ「ソビヤ」ヨリ新ニ一万二千ノ増加兵及ヒ多數ノ糧食
彈藥ヲ得タリ以テ自ラ固フスルニ足ル故ニ今遽ニ之ヲ援助スルノ必要ナシ
乃チ之レカ援助ヲ爲サンカ爲メ本軍ヲ以テ決戦ヲ爲シ其運命ヲ賭セントス
ルカ如キハ無謀ノ策ナリ宜シク四角要塞内ニ退陣シ以テ其運命ヲ全フスヘ
シト

二部下ノ軍隊ハ攻撃ヲ爲スニ適セスト

同氏ノ此ニ至ル迄爲セシ作戰ノ景況ニ因テ觀レハ眞ノ攻撃ヲ爲スニ非スシ
テ機動ヲ以テ敵ヲ退却セシメントセシモノ、如シ同氏ノ策果シテ此ニ出シ
ナレハ其一部ハ功ヲ奏セシモノナリ即チ魯國第十二第十三軍團ハ「メヘメ
ーアリ」ノ大軍處々ニ前進運動ヲ爲セシカ爲メ退却セシモノナリ
Ali

三「メヘメーアリ」ハ部下ノ軍隊ノ信用セサルノミナラス季節ノ既ニ攻撃ヲ爲
スニ適セサルヲ知ル
Mehemet Ali

冬季ハ己ニ近シ酷寒ヲ「ビュルガリー」地方ニ於テ經過スルハ最モ困難ナリ
且ツ今ヤ秋季大雨ノ候ナリ之レカ爲メ道路ハ變シテ殆ント沼地トナリ軍隊
ヲ運動セシム可ラス加之「ダニユーブ」川水量ヲ増加シ通過困難ナルニ至ル
之レニ次ク處ノ降雪酷寒ハ「ダニユーブ」河ヲ氷結スルカ或ハ諸橋梁ヲ毀壞
スルニ至ル
Danube

是ヲ以テ「メヘメーアリ」以爲ラク冬季ハ魯軍背後ノ連絡ヲ頗ル危カラシム
故ニ彼レ戦ヲスシテ去ラン此時李ニ至ル迄魯軍ヲ支保セハ己ニ足レリ豈ニ大
決戦ヲ爲シテ運命ヲ賭スルノ危キヲ爲スヲ要センヤト
Mehemet Ali

「メヘメーアリ」ノ此案ハ戰史上ニ基クモノナリ是ヨリ先キ魯國ハ土國ニ
對シテ四回ノ戦争ヲ爲セリ而シテ魯軍ハ一回タモ「ダニユーブ」川ヲ超過セ
サルコトナシ然レモ冬季ニ至レハ毎ニ川ヲ超エテ去レリ
Danube

魯國新聞紙其他各國ヨリ刷出スル諸種ノ文書ハ魯軍カ冬季ニ至ルモ猶オ「ビ

「ブルガリア」地方ニ於テ戦闘ヲ續行スヘキヲ掲ク「コンスタンチノツプル」ノ
 Bulgare Constantinople
 土延之ヲ見ルヤ更ニ「メヘメーアリ」ニ攻勢移轉ヲ促ス然レモ「メヘメーアリ」
 Mehemet Ali
 ハ前件ノ理由ヲ以テ之ヲ辭ス曰ク魯軍若シ戦闘ヲ續行セントセハ彼レノ意ニ
 任セシムヘシ之レニ應對スルモノハ季節アリ秋季ノ大雨ト冬季ノ酷寒ニ際シ
 徒ニ我軍隊ヲ疲勞セシメ且ツ死地ニ階ラシムルハ獨リ狂人之ヲ爲スヘシ予ハ
 之ヲ爲スヲ得スト

實ニ此考慮ハ不當ニ非サルナリ

魯軍ハ「プレブナ」ニ於テ三敗シ且ツ同所ニ土軍ノ増加兵來着セシヲ知ルヤ先
 Plevna
 ツ退却ノ必要ナルヤ否ヲ考慮セサルヘカラス「ダニユーブ」川水量ヲ増加シ背
 Danube
 后ノ連絡危険トナルヲモ顧ミス「ビユルガリ」ニ駐止スルハ投機ノ策ナリ又
 Bulgare
 假令退路安全ナリトスルモ此地方ニ於テ冬季戦ヲ爲サントスルハ不當ナリ
 魯軍ハ此投機ノ策ヲ採ルニ決セリ是レ國ノ榮譽ハ之ヲ爲サ、ルヲ許サ、ルナ

リ魯軍ハ此策ヲ實施スルニ當テ依頼スヘキモノハ唯士卒ノ性質ナリ魯軍ノ士
 卒ハ能ク酷寒ニ堪ユルノ習慣ヲ有ス且ツ其耐忍力ニ富ムハ他ニ比類ヲ見サル
 所ナリ士卒ノ此良性質ハ屢々司令官ノ過失ヲ補ヒシコアリ

今ヤ魯軍ニハ本國ヨリ多數ノ増加兵來着セリ而シテ背後ノ交通ニハ鐵道アル
 ナリテ昔日ニ比スレハ便ナリ此鐵道ハ軍隊ノ輸送ニハ適恰ナラサルモ糧食等
 ノ運搬ヲ大ニ容易ナラシメタリ此利ヲシテ益大ナラシメンカ爲メ魯軍ハ更ニ
 「ヂユルヂエウチ」ヨリ「シストウア」ニ至ル線ヲ増設セリ
 Giurgevo Nistova

魯軍ハ「プレブナ」第三ノ敗後「ナスマンバシヤ」ノ軍ヲ長圍シテ之ヲ孤立セシ
 Plevna Osman Pacha
 メント欲ス然レモ本國ヨリ増加兵ノ來着スル迄「プレブナ」西方ノ面ハ唯騎兵
 ナリテ監視スルニ止マル即前ニ述ヘシ如ク魯國及「ルーマニ」國ノ連合騎兵五
 Rhomanie
 十中隊騎砲三十門ハ將官「クリーロフ」ノ指揮ニ屬シ九月十九日「ドルニード」
 Dony
 ウブニアク」ニ集合スルニ「クリーロフ」將官ハ屢々其作戰ヲ過テリ即チ左
 Doubnjak Krylof

「プレブナ」
 西方ニ於ケル
 魯將「クリー
 ロフ」
 ノ働作

ニ述フルカ如シ

「ナスマンパシヤ」ハ「プレブナ」ニ於ケル第三勝利ノ後冬季ニ至ラサル前退却

ヲ爲サントセリ然レモ「コンスタンチノツプル」ニ於ケル軍事會議ハ之ヲ許サ

ス依テ「ソヒヤ」ト「タルクハ」ニ新軍隊ヲ編成ス土將「シエフケトパシヤ」之ヲ

率ユ此新軍隊ハ多數ノ糧食ト彈藥ヲ「プレブナ」ニ携行スルノ任ヲ有ス

魯將「クリーロフ」ハ其本營ヲ「ドルニードウブニアク」ニ置キ西方ヨリ「プレ

ブナ」ニ對シ監視ス騎兵六中隊砲二門ヨリ成ル、偵察隊ヲ「テリシユ」ニ派遣ス

此支隊ハ九月二十日土軍ニ衝突セリ而シテ土軍騎兵ノ背後ニハ歩兵縱隊アル

ヲ視ル二十一日ニ至リ更ニ騎兵十四中隊砲六門ヨリ成ル偵察隊ノ報告ニ因テ

前報ヲ確實ナラシム

二十二日「ドルニードウブニアク」ニ向テ土軍前進スルヲ知ル又魯軍ノ背後ニ

向テ「プレブナ」ヨリ出撃シ來ルノ報告ヲ得魯將「クリーロフ」ノ諸隊ハ「トレ

プレブナ」ヨリ出撃シ來ルノ報告ヲ得魯將「クリーロフ」ノ諸隊ハ「トレ

ストニク」ニ退ク其後衛ハ土軍凡ソ一万二千人砲兵二中隊及ヒ多數ノ糧食彈

藥「プレブナ」ニ入ルヲ視ル

「クリーロフ」ハ騎兵二旅團ヲ「トレストニク」南方ニ留メ殘餘ヲ以テ「ラホウ

ア」ニ進向ス實ニ此動作ハ其理由ヲ解ス可ラサルモノナリ

「ラホウア」ハ「ダニユーブ」河畔ニアリ土製角面堡ヲ以テ其周圍ノ防禦ヲ堅固

ニス

魯軍支隊ハ二十六日此角面堡ノ一ヲ砲撃ス然レモ功ヲ奏セス二十八日其退路

ニ逼迫セリ然レモ亦功ヲ奏セス三十日ニ至リ再ヒ「トレストニク」ニ歸來ス

其一日前魯軍ハ「テリシユ」ヲ經テ「タルクハ」ニ向ヒ一ノ偵察支隊ヲ派遣セ

リ其報ニ曰ク敵ハ「ルーコウイツア」近傍迄ノ土地ヲ開放セリ本道上「ルーコ

ウイツア」附近ノ橋梁ハ之ヲ破裂シ得タリ

十月五日四千乃至五千ノ土軍「ラドミルツア」ニ現ハル其他制外軍騎兵五千人

Radomirtza

編者記ス
第四号圖中
「ルーコウ
イツア」ニ
アリ此ニ記
スモノハ
「プレブナ」
ヨリ「ラハ
クハ」ニ
通スル道路

上ニアルモ
ノナリ以下
之レニ倣フ
編者記ス
將官「クリ
イロフ」ノ
「ラホウア」
ニ向フヤ大
佐「レウイ」
Loris
氏ハ殘留騎
兵ノ指揮ヲ
執レリ同氏
ハ良ク働作
シ且ツ土軍
ノ輜重ヲ多
少奪略セリ
本文ニアル
前方ニアリ
シ支隊ノ如
キハ同氏自
ラ指揮スル
所ノモノナ
リ

及砲五門モ亦タ此地方ヨリ「プレブナ」ニ向テ進行ス
「クリーロフ」ハ此時亦タ何事ヲモ爲サスシテ駐止セリ其前方ノ支隊ハ土軍ノ
進來スルニ從ヒ「テヨウマユウイ」ヲ經テ退却ス
「クリーロフ」ノ働作如此ナリシヲ以テ土軍ノ大ナル糧食ト彈藥ハ危險ナク魯
軍ノ面前ヲ通過シテ「プレブナ」ニ入ルヲ得タリ而シテ其護衛隊ハ更ニ兵站線
ノ守備ニ任ス即チ此隊ハ「ラドミルツア」「テリシユ」及ヒ「ドルニドウブニア
ク」ヲ守備シ其騎兵團ハ「トレストニク」ニ對シ東方ニアル軍隊ヲ掩護ス
此時ニ當リ魯國將官ト「トルベン」ハ招カレテ此地ニ來着ス同氏ハ「セバスト
ポール」守禦ニ際シ其名最モ較著ナリシ人ナリ今ヤ「プレブナ」ノ攻撃ハ同氏
ノ臨場ヲ必要ト爲スニ至リシヲ以テ更タニ彼得斯堡ヨリ招カレタルナリ同氏
ハ來テ「ルーマニ」候即チ攻撃司令官ノ補助官トナル依テ候ハ同氏ニ大ナル自
由ヲ與フ同氏ハ則チ攻撃ノ順序ヲ定ム

魯將「ダ
ルコ」ノ再
來及ヒ土軍
兵站路絶タ
ル

九月二十八日魯軍ハ「グリウイツア」附近ノ第二角面堡ヲ略取セントセシモ攻
撃ナラスシテ四百人ヲ失フ
十月八日歩兵六大隊ヲ以テ更ニ侵略ヲ試ミシモ功ヲ奏セス復タ千人ヲ失フ
魯國近衛團ハ「プレブナ」ノ戰鬪ニ參與シ得ルニ至レリ是レ土國本軍ハ四角要
塞内ニ駐止シテ働作セサルヲ以テナリ
近衛團ハ九月下旬「シストウア」附近ニ於テ「ダニユーブ」川ノ渡過ヲ始メ十月
十八日先ツ歩兵三十二大隊騎兵二十四中隊砲百六十二門ヲ「リゼー」及ヒ「ピ
カス（「ロウア」）ニ集合ス是レ所要ニ應シ「シブカ」或ハ「プレブナ」ニ進向セシ
メンカ爲メナリ然ルニ今ヤ他ノ戰場ニハ殆ント働作ヲ停止スルニ至リシヲ以
テ即チ「プレブナ」ニ向テ進行セシムルヲ得ルナリ
魯將「ダールコハ」再ヒ戰地ニ來リ騎兵團ノ指揮ヲ執ル而シテ魯國ヨリ來着
スル所ノ二個ノ擲彈師團ヲ其部下ニ合シ以テ「プレブナ」西方ノ地ヲ畧取セ

ントス

魯軍此企謀ヲ貫カンカ爲メニハ南方ニ對シテ警戒スルヲ要ス何トナレハ「バルカン」山諸峙ハ土軍ノ領有タレハナリ

是迄「セルウイ」ニアリシ格薩ノ第三師團ハ南方警戒ノ任務ヲ受ケ十月六日己

ニ「トロシヤン」^{Solvi}「ロウアツ」^{Trojan}ノ南ニ在リ偵察隊ヲ「テテウエン」^{Lowolz}ニ派遣ス同地

ハ未タ土軍ノ有スル所ナリ

魯將「グールコ」^{Gourko}「プレブナ」^{Plevna}西方ノ地ヲ領セント欲セハ兵站路守備ノ土軍ヲ驅

逐セサル可ラス「ドルニードウブニアク」^{Dorny Doubnjak}「ゴルニードウブリアク」^{Gorny Doubnjak}及ヒ「テ

リシユ」^{Telisch}ニアル土軍ハ凡ソ一万人ト推測セラル

將官「グールコ」ハ正面ト右翼ニ近衛師團ヲ展開シ而シテ其右側ハ「プレブナ」^{Telisch}南面ヲ包圍スル魯軍ノ掩護ヲ受ク

十月二十四日「ゴルニードウブニアク」^{Gorny Doubnjak}ノ土軍ヲ攻撃ス之レニ使用スル兵員歩

兵三十二大隊砲八十門ナリ

「ドルニードウブニア」^{Dorny Doubnjak}ニ向テハ同時ニ大ナル陽撃ヲ爲ス又歩兵四大隊砲兵

一中隊ヲ以テ「テリシユ」^{Telisch}ノ土車ヲ羈縻シ近衛一旅團ヲ以テ「ラドミルツア」^{Radomirtza}ニ

對シ監視セシム

是迄「クリーロフ」^{Krylof}將官ノ部下ニ在テ「トレストニク」^{Trystnik}ニアリシ騎兵ヲシテ

「ゴルニードウブニアク」^{Gorny Doubnjak}ヨリ「テリシユ」^{Telisch}ノ道路ニ向テ進マシム如此シテ魯軍

ハ土軍ノ兵站路ヲ包圍セリ

又「プレブナ」^{Plevna}西方監視ノ爲メ騎兵團ヨリ騎兵七中隊砲兵二中隊ヲ派遣ス此支

隊ハ「ルーマニー」^{Roumanie}國歩兵五大隊砲兵一中隊ヨリ増加セラレ

兵站路攻撃ノ間「ナスマンパシヤ」^{Osman pacha}ノ軍隊ヲ羈縻スル爲メ周圍ヨリ絶ヘス「プ

レブナ」^{Plevna}ヲ砲撃ス

「ゴルニードウブニアク」^{Gorny Doubnjak}ノ土軍ハ少クモ四千及砲四門ナリシ此支隊ハ四

方ヨリ包撃セラレ援兵ヲ得ルヲナク苦戦ノ後終ニ武器ヲ投シテ降ル之レニ因テ魯軍ハ負傷ナキ二千二百人ノ生擒ヲ獲タリ然レモ魯軍ハ之レカ爲メ將校百十六人下士卒三千百九十五人ヲ失フ故ニ其負傷ノ比土軍一人ニ魯軍ノ一人半ヲ爲ス

「テリシユ」ニ向テ爲セシ攻撃ハ撃退セラレ魯軍千人ヲ死傷ス
Telisch

此日兵站路ノ土軍ヲ攻撃スル爲メ魯軍ハ總計五千三百人ヲ失ヘリ

是ヨリ後四日「テリシユ」ノ土軍ハ周圍ヨリ六十六門ノ砲ヲ以テ三時間砲撃セラレ終ニ三千人及ヒ砲三門ヲ以テ降ル
Telisch

「ラドミルツア」ノ土軍ハ「テリシユ」ノ土軍ヲ赴援セシモ機ニ後ル
Radomirtza Telisch

「ドルニードウブニアク」ノ土軍ハ魯軍ノ「ゴルニードウブニク」ニ向テスル運動ヲ阻碍シ能ク其地ヲ保守スルヲ得シモ終ニ「プレブナ」ニ入テ「ナスマンバ
Dorny Doubniak Gorny Doubniak Plevna

シヤ」ノ軍ニ合ス又「テリシユ」南方ニアリシ土國兵站軍隊ハ悉ク「ナルクハ
Telisch Osman pachha Orkhanie

「プレブナ」全ク孤立ス

魯將「グルコ」ノ南進

「ノ方向ニ退却ス

如此シテ魯軍ハ十一月一日遂ニ「プレブナ」西面ヲ閉鎖シ得ルニ至レリ故ニ

「プレブナ」ハ全ク外地ノ交通ヲ遮斷セラル換言スレハ今ヤ「プレブナ」ノ防禦
Plevna Plevna

ハ糧食盡クルノ期ヲ以テ最後ノ日トナスノ秋ナリ

此時ニ當リ近衛第三師團及ヒ二個ノ擲彈師團ハ「プレブナ」西方ニ來着セリ依
Plevna

テ將官「グルルコ」ハ猶南方「ナルクハニ」ニ向テ前進セントス是レ兵站守備ノ
Gourko Orkhanie

土軍ヲ勉テ「ソヒヤ」ノ方向ニ窘縮セシメントスルニアリ
Sophia

之レカ爲メ將官「グルルコ」ハ「トロシヤン」ニアル格薩騎兵第三師團ヲ使
Gourko Trojan

用スルヲ得而シテ其一部分ハ己ニ十一月一日「テテヴェン」ヲ占領セリ
Potoven

又「グルルコ」ノ南進スルニ當テ率ユル軍隊ハ近衛第一第二師團獵兵旅團及ヒ
Gourko

多數ノ騎兵トス其兵員左ノ如シ
歩兵三十六大隊

騎兵五十中隊

砲百二十六門

「プレブナ」包圍ニ使用スル軍隊ハ「ルーマニー」軍三師團魯軍八師團半トス而
其攻圍線ノ長サハ七十吉米ニ達セリ即チ六乃至七吉米ニ一師團ヲ配置ス故ニ
攻圍線ノ軍隊ハ甚薄弱ナリ

其他「プレブナ」攻圍ヲ全カラシメンニハ「ラホウア」ノ方向ヲ警戒セサル可ラ
ス何トナレハ此地ハ未タ土軍ノ有ニシテ且ツ「ウイジン」ニ通スル道路上ニ
アレハナリ此警戒ノ爲メニハ第一軍團ノ騎兵ヲ使用ス而シテ同軍團ノ砲兵ハ

「プレブナ」攻圍ニ使用セラル
此間土國本軍ニ大變動ヲ生セリ即チ總督「メヘメーアリ」ハ攻勢ノ取ル可ラサ
ルヲ論シ之ヲ辭セシカ爲メ土廷ハ其職ヲ免シ更ニ「スレイマンパシヤ」ニ總督
ノ任ヲ授ク己ニ述フルカ如ク同氏ハ「シプカ」峠ニ於テ非常ノ激戦ヲ爲シ勇名

ヲ顯セシモ戦役ノ後軍律ニ問ハレントセシ人ナリ
「スレイマンパシヤ」ハ「シプカ」峠ニ於テ攻撃主義ヲ示セリ故ニ土廷以爲ラク
同氏ヲ以テ總督トセハ必ス四角要塞ノ本軍ヲ以テ攻勢ニ轉スルナラント
「シプカ」峠ニ對スル土軍司令ノ後任ハ「レウフパシヤ」前(海軍卿)ナリ
此ニ於テ魯軍以爲アク四角要塞ノ土軍ハ出撃シ來ルナルヘク又「シプカ」峠
ニ在テハ巧ナル帥兵ヲ爲スヘシト依テ魯軍ハ之レニ應スルカ爲メ皇太子ノ軍
ニ第十一軍團ノ第二十二師團及騎兵第十一師團ノ半ヲ増加ス又皇太子ノ軍ト
「ラデツキー」將官ノ率ユル第八軍團ノ中間ヲ連結スル爲メ更ニ第二十六師團
及七騎兵第十三師團ヲ以テ第十一軍隊ヲ編成ス已ニ知ル如ク第十一軍團ノ他
ノ一部分ハ「ダニユーブ」左岸ニ於テ「ルーチユク」ニ對陣ス
將官「ラデツキー」ノ軍團モ亦タ第二十四師團ヲ以テ増加セララル
十一月五日將官「グールコ」ハ先ツ「ジャブロニツア」ヲ占ム同地ハ「プレブ

ナ顯セシモ戦役ノ後軍律ニ問ハレントセシ人ナリ
「スレイマンパシヤ」ハ「シプカ」峠ニ於テ攻撃主義ヲ示セリ故ニ土廷以爲ラク
同氏ヲ以テ總督トセハ必ス四角要塞ノ本軍ヲ以テ攻勢ニ轉スルナラント
「シプカ」峠ニ對スル土軍司令ノ後任ハ「レウフパシヤ」前(海軍卿)ナリ
此ニ於テ魯軍以爲アク四角要塞ノ土軍ハ出撃シ來ルナルヘク又「シプカ」峠
ニ在テハ巧ナル帥兵ヲ爲スヘシト依テ魯軍ハ之レニ應スルカ爲メ皇太子ノ軍
ニ第十一軍團ノ第二十二師團及騎兵第十一師團ノ半ヲ増加ス又皇太子ノ軍ト
「ラデツキー」將官ノ率ユル第八軍團ノ中間ヲ連結スル爲メ更ニ第二十六師團
及七騎兵第十三師團ヲ以テ第十一軍隊ヲ編成ス已ニ知ル如ク第十一軍團ノ他
ノ一部分ハ「ダニユーブ」左岸ニ於テ「ルーチユク」ニ對陣ス
將官「ラデツキー」ノ軍團モ亦タ第二十四師團ヲ以テ増加セララル
十一月五日將官「グールコ」ハ先ツ「ジャブロニツア」ヲ占ム同地ハ「プレブ

ナ」ヨリ「テリシユ」ヲ經テ「ナルクハニ」ニ至ル道路上「バルカン」山内ニ在リ
Talsch Orhanie
峠ノ最高部ニシテ路幅最モ狭ク真ニ山背ヲ爲ス又右翼ハ騎兵ヲ以テ掩護ス
九日騎兵ヲ以テ「ウラツツア」ヲ略取ス同地ニテ多クノ貯藏物品ヲ獲タリ是レ
Wratza
先キニ土國新軍隊ノ「プレブナ」ニ入ルヘキモノ「ナルクハニ」ニ於テ集中セシ
Plevna Orhanie
際其物品ヲ貯藏セシナリ

「ウラツツア」ヲ略取セシ騎兵ハ「ベルコウアツ」ニ土軍現在スルヲ報ス「ルー
Wratza Berkowatz Ion
チコウチ」及ヒ「ノウアチン」ニモ亦タ土軍凡一万五千人アリ「ナルクハニ」ヲ
Iikowo Nowatchin Orhanie
掩護スルヲ知ル

土軍ノ占領面ハ右翼「エトロポール」ヨリ左翼「ノウアチン」ニ至ル而シテ其中
Etropol Nowatchin
央ハ「プラヴツア」ニアリ

將官「グールユ」ハ此陣地即チ「エトロポール」及ヒ「プラヴツア」ヲ同時ニ攻
Prawtza Etropol Prawtza
撃セント欲ス又右翼ニ於テハ「ウラツツア」ヨリ騎兵ヲ以テ陽撃シ「ナルクハ
Gourko Etropol Orhanie
ニ」ニアル土軍豫備隊ヲ此方向ニ誘出セントス

「グールユ」將官ノ戰鬥セシハ「バルカン」山中最モ困難ノ處タリ
Gourko Balkan
註 此道路上「バルカン」山ノ本峠ハ「ナルクハニ」ノ南方道路屈曲ノ点即
チ「アラブコナク」トス此處ニハ土軍豫シメ防禦工事ヲ施ス然レモ土
Arabkonak Orhanie
軍ハ最初「エトロポール」ヨリ「プラヴツア」ニ亘ル山脉ヲ守備セリ
Etropol Prawtza

將官「グールユ」ハ其左翼歩兵十二大隊騎兵十中隊砲兵三中隊ヲシテ「エトロ
Gourko Orhanie
ポール」ニ向ハシム歩兵二十二大隊騎兵六中隊砲兵若干中隊ハ「ナシコウチ」
Osikowo
ヲ經テ「プラヴツア」ニ前進シ土軍ノ正面ニ在テ他ノ縱隊敵ノ左側ニ出現スル
Prawtza
迄敵ヲ動搖セシム

歩兵二大隊騎兵十中隊砲兵三中隊ヨリ成ル一縱隊ハ「シヤブロニツア」ヨリ
Jablontza
「ウイドラル」及ヒ「カルゲロウチ」ヲ經テ前進シ西方山背ヨリ土軍ノ左翼ヲ攻
Vidrar Kalugerowo
撃セントス

「シヤブロニツア」ヨリ「ナルクハニ」ニ至ル道路ハ「プラウツア」ニ於テ西ニ曲折ス而シテ此点ハ山背ノ高キ凸出部ナリ此凸出部ニ土軍ハ防禦工事ヲ施セリ故ニ此陣地ハ北方ニ面シ頗ル堅固ニシテ正面及ヒ側面共ニ冒ス可ラサル地ナリ其左側ノ如キハ山岳錯雜ニシテ土軍ハ歩行ス可ラスト自信セリ

「グールコ」將官ノ右縦隊ハ非常ノ困難ヲ以テ此山間ヲ發行セリ之レカ爲メ多クハ工兵隊ヲシテ道路ヲ作ラシメ又砲兵及其彈藥ノ如キハ人力ヲ以テ運搬スルヲ要セリ勢ヒ此ノ如キヲ以テ豫定ノ期ニ到着スルヲ得スシテ一日間ヲ遅緩セリ故ニ正面ニアル縦隊ハ此日無益ニ右縦隊ノ來着ヲ待テリ然ルニ右縦隊ハ二十三日ニ至リ土軍ノ左翼ニ出テ之ヲ急襲スルヲ得タリ故ニ正面ノ縦隊ハ三十六時間ノ陽撃ヲ爲セリ

魯軍ノ右縦隊土軍ノ左側ニ出シカ爲メ土軍ハ自ラ包圍セラル、ニ至レリ故ニ魯軍ハ僅ニ七十二人ヲ損傷セシノミニシテ此堅固ナル陣地ヲ抜クヲ得タリ依

テ魯軍ハ翌日「ナルクハニ」ニ向ヒ中途迄前進ス

魯軍ハ「エトロポール」モ亦タ容易ク略取スルヲ得タリ然レモ土軍ハ其南方

「アラブユナク」ニ退キ守ル此地ハ從來ノ防禦工事アリ且ツ土地堅ナリ魯軍ハ

「プラウツア」及ヒ「エトロポール」ヨリ之ニ向テ展開ス

十二月三日ニ至ル間ニ魯軍ハ陣地ニ砲台ヲ築キ此日ヨリ砲火ヲ開ク土軍ハ二

三日間其陣地ヲ保守セシモ其軍隊ノ小ナリシカ爲メ終ニ事ヲ過ツニ至レリ

「グールコ」ハ其左翼「ストラチツア」ニ向テ小支隊ヲ出セリ此支隊ハ「バルカン」

山ノ南面半腹ニ占陣ス

魯軍ノ右翼騎兵團ハ土軍ノ左翼「ルーチコウ」ヲ及ヒ「ノウアチン」ノ防禦工事

ニ向テ攻撃セシモ功ヲ奏セサルノミヲラス砲二門ヲ失ヘリ然レモ二十六日ニ於テ土軍ハ自ラ此地ヲ棄テ、去レリ是レ「プラウツア」ノ陥リシカ爲メナリ而シテ其退却セシ土軍ハ「オガジャ」ニ駐止シ以テ「ソヒヤ」ニ通スル徒歩道ヲ扼

ス
魯國騎兵十中隊砲六門ハ「ナガシヤ」ニ對シ「ルーナユウ」ヲ及ヒ「ノウアナン」ニ陣ス
Ogaja Louthkovo Nowatchin

「ベルコウアツ」ノ土軍ニ對シ監視ノ爲メ「ウラツツア」ニ騎兵六中隊砲六門ヲ配置ス又北方ヨリ「ベルコウアツ」監視ノ爲メ「クトロウイツア」ニ兵ヲ派遣ス
Berkowatz Wratza Krihowitza Berkowatz

此間「プレブナ」附近ヨリ「ラホウア」ニ派遣セシ魯軍ハ同所ヲ占領ス土軍ハ「ウイヂン」ニ退ク
Plevna Rahova Widin
茲ニ於テ魯軍ノ監視線ハ延ビテ「ロムパラシカ」(「ベルコウアツ」ヨリ北方ニ通スル道路上「メニユーブ」河畔ニアリ)ニ及フ
Lom Palamka

今ヤ魯將「グルルユ」及ヒ「ラデツキー」ハ「バルカン」山中ニ在テ土軍ト對峙ス是ヨリ前方ニ進攻セントスルカ如キハ當時望外ノ事トナス故ニ唯「ソヒヤ」及
Gourko Radetzky Balkan Sophia

ヒ「シプカ」ヨリ「プレブナ」ニ通スル道路ヲ遮断スルヲ以テ足レリトセサル可
ラス Schipka Plevna

土軍ハ已ニ「ナスマンパシヤ」ニ援兵ヲ送ラント欲スルモ能ハス強テ之ヲ援助セント欲スルモ唯僅ニ四角要塞ヨリ前進スルノ一策アルノミ
Osman pacha

千八百七十七年 魯土戰史筆記第十四 明治二十一年五月四日

土國將官「メヘメアーリ」ノ西方ニ向テ攻勢ニ轉セサリシ其理由ハ前回既ニ記述セリ
Mehemet Ali

土軍以爲ラク魯軍ハ十二月下旬ニ至ラハ「多腦」河増水ノ爲メ背后ノ連絡危険トナリ加之ナラス「ビユルカリー」國ノ地形ト天候ニ妨ケラレ遂ニ退却スルナラント
Bulgarie

土軍實ニ如斯想定セシハ大ナル齟齬ナリシ魯軍ハ地ノ利ト天ノ時ニ關セス其ノ國軍事上ノ名譽ト世界各國ノ矚目ニ係ハリ其作戰ヲ繼續スルコトニ決セリ

此時ニ方リ魯軍隨意ニ「多腦」河ヲ渡リ退却スルモ世人ハ目シテ實ニ敗退セシモノトナスナラン然ルモハ戰略上ノ敗北ヲ取リシモノトセサルヲ得ス
茲ニ於テ魯軍ハ堅氷積雪ニモ抱ハラズ「多腦」南方諸點ヲ固守シ數多ノ橋梁ヲ

「多腦」河ニ架設シ作戰ヲ強行セリ

此ノ魯軍ノ處置亦一理アルナリ

魯軍ハ數回「プレブナ」攻撃ニ失敗セリ今ヤ其攻撃ノ方法ヲ一變シ遠ク「ナス

Plevna

Osman

マンパシヤ」ヲ包圍シ外糧食彈藥ノ運搬ヲ絶タンカ爲メ本國ヨリ漸々増援兵

pacha

到着セシ増援兵ヲ使用シ遂ニ「プレブナ」市街ヲ全ク包圍スルニ至レリ

Plevna

實二十十一月初旬將官「グールコ」ノ爲メ土軍兵站路ハ全ク斷絶セラレ「プレブ

Gourko

Plevna

ナ」ハ已ニ孤立セリ

「プレブナ」包圍ノ時ニ方リ土軍ハ屢々圍ヲ解カンヲ試シモ果タサス四角要

Plevna

塞ノ土國本軍及「シプカ」峠ニアル土軍ハ此時俱ニ守勢ノ位置ニアリシ

Schipka

既ニ前回ニモ述フル如ク魯軍ハ衆多ノ増援兵ヲ得シヲ以テ「プレブナ」資原

Plevna

タル「ソヒヤ」ニ向ヒ攻撃シ土軍ヲシテ其糧食彈藥及軍隊ヲ「プレブナ」ニ送ル

Sophia

Plevna

ヲ得サラシム將官「グールコ」ノ此ノ動作ハ即チ「エトロポール」「バルカン」ノ

Gourko

Etoropol

Balkan

攻撃ト稱スルモノナリ

此ノ戰ニ於テ將官「グールコ」ハ「プラヴツア」及「エトロポール」ノ土軍ノ陣地

Gourko

Pavtza

Etoropol

ヲ略取シ土軍主力ハ「バルカン」南方山脈ナル「アラブユナク」ニ退却ス

Aralkonak

然レモ土軍ハ尚「バルカン」西部ノ山脈ヲ領有セリ

Balkan

將官「グールコ」ハ「プラヴツア」及「エトロポール」ノ陣地ニ堅固ナル防禦工事

Gourko

Pavtza

Etoropol

ヲ施シ南方ニ對シテ警備セリ其左翼「ストラテツア」ニ一支隊ヲ出ス此支隊ハ

Slavza

「バルカン」山南面半腹ニ占陣セリ

Balkan

又「ストラテツア」ヨリ「テ、ベン」ニ通スル街道ニ一支隊アリ此文隊ハ第三師團

Slavza

Teteven

ヨリ出セシモノニシテ先キニ「トロジヤン」及「テ、ベン」ヲ占領スルノ任務ヲ

Trojan

Teteven

有セシモノナリ今既ニ其ノ任務ヲ果セリ

「シプカ」峠ノ土軍ニ對シ其積雪ノ中ニ布陣セル有名ナル魯國將官「ラデキー」

Schipka

Radetzky

ハ當時衆多ノ増援兵ヲ得タリ故ニ一時之レニ増加セシ軍隊ハ各其所屬軍團ニ

復歸セシム

今又茲ニ第二十四師團ノ歩兵三聯隊來着ス此ノ部隊ハ「シプカ」峠ノ頂上ニ在テ露次ス之レカ爲メ其將士疾病ニ罹リ損傷頗ル多シ

Schipka

「シプカ」峠南方土軍ノ主力ハ「ケザンリツク」ニ在テ其前哨ハ魯軍前哨ト甚ダ接近ス

Schipka

Kezanlik

土軍「シプカ」峠ヲ恢復セント試ミシモ毎子ニ功ヲ奏セス即チ此ノ戰鬥ハ十二月八日十一日及廿一日ニ施行セシモノナリ

Schipka

「ニコラス」山前方ニ布陣セル魯軍ハ土軍ノ爲メニ擊退セラレタリ

Nicolas

此時ニ方リ土軍總督「スレイマンパシヤ」ハ全ク守勢ヲ取ルニモアラス又地形ヲ利用スルヲチモ爲サス其主力ヲ「ルーチユツク」ニ集合シ十一月七日及ヒ十

Suleiman pacha

Routschouk

四日ニ於テ「カヂキユーイ」ヲ突撃セシモ功ヲ奏セス因テ「カヂキユーイ」及「ソレニツク」ニ對シ各一師團ヲ殘置シテ監視センメ「スレイマンパシヤ」自

Kadikieui

Kadikieui

Solenik

Suleiman pacha

十二月上旬
ニ於ケル十
軍ノ配置

ラハ半師團ヲ率ヒテ「ラスグラド」ニ退却セリ

Rasgrad

今ヤ土軍ノ配置ハ即左ノ如シ

「ルーチユツク」ニ

壹萬人

Routschouk

「カヂキユーイ」及「ソレニツク」ノ線ニ

壹万五千人

Kadikieui

四千人

其ノ左翼ニ接シテ

「ラスグラド」及ヒ其附近ニ

四万五千人

Rasgrad

「エスキヂユーマ」及「ナスマンバザール」附近ニ

壹万二千人

Eski-Djouma

Osmanbazar

其外「チエルナボダー」「コスタンツア」ノ魯軍ニ對シ「バザルヂツク」ニ土國ノ

Tchernavoda

Kostantza

Pazardjik

一軍アリ

又「シリストリ」要塞ニ壹万人其他土軍ハ「ワルナ」「シユームラ」及ヒ小要塞

Silistrie

Varna

Schoumla

「チエルチユカイ」「ダニユーブ」河畔ヲ守備セリ

Turtukai

此レニ因テ觀レハ土軍ノ兵力ハ取テ微弱ナルニ非サルナリ

魯國皇太子ノ率ヒシ第十二軍團騎兵第十二師團格薩克騎兵第二聯隊ハ其右翼
ヲ「ダモジラ」中央ヲ「トルステニツク」左翼ヲ「メナカ」ニ於テ占陣セリ
此軍團ノ右翼ニ第十三軍團(騎兵師團ヲ附加セス)及第八騎兵師團並ニ格薩克騎兵第
三聯隊布陳ス

第十三軍團第三十二師團ノ陣地ニ第二十六師團ヲ以テ補填ス此師團ハ後ニ至
リ來着セシモノナリ故ニ第十三軍團ハ總計三師團ヲ使用スルニ至ル

第十三軍團ノ主力ハ「シナンキユーイ」ニ在テ其右翼ハ「チエルコブナ」ニ至リ
其前兵ハ「カラ、ロム」河ノ左岸迄前進セリ

第十一軍團ハ魯軍總督ノ直令下ニ属シ其第十一師團及第十三師團ニ騎兵部
隊ヲ附属セシメ「ラスグラド」「エスキチユーマ」ノ土軍ニ對シ第十三軍團ノ

右翼ニ接シ「ナルノバ」ヨリ「ポプキチヒ」ニ至ル街道ト「ナルノバ」ヨリ「スタ
タリ」ニ至ル兩街道ヲ監視セリ

十一月二日
ヨリ十二日
上旬ニ至ル
土將「スレ
イマンパシ
ヤ」ノ出陣
動作

十月廿四日ニ於テ第十二及第十三軍團ハ「ジヨウワン、グフリツク」「ソレニツ
ク」及「コスタマンツア」「ラスグラト」ノ西方ニ偵察隊ヲ派遣セリ

十一月二日ヨリ十六日間ニ於テ土將「スレイマンパシヤ」ハ魯軍ト遭遇シ遂
ニ翌十七日ニ於テ攻撃ヲ試ムルニ至レリ

此ニ因テ觀レハ「メヘメアリー」退却後二ヶ月ヲ經過シテ「スレイマンパシヤ」
ハ初テ攻撃動作ヲ爲セリ

此ノ二ヶ月ノ間ニ於テ魯軍ハ實ニ衆多ノ増援兵ヲ得シナリ

「スーラヒマンパシヤ」ノ此攻撃ハ策モナク勇モナク皇太子ノ軍ニ對シテ諸處
ニ出沒シ常ニ兵分レ勢弱シ

瑞西ノ兵家「リュストー」氏嘗テ「スレイマンパシヤ」ノ動作ヲ評シ抽斗戰術ト
謂ヒシ是レ蓋シ一方ヲ進ム時ハ他ノ一方ハ作テ退キ其進退前後照應セサル

ノ謂ヒナラン

十七日「スレイマンパシヤ」ハ歩兵十大隊ヲ率ヒ「ルーナク」ヨリ「ピルゴス」

Suleiman pacha

Routschuk

Pirgos

ナカ」ニ向テ出撃セシモ魯軍第十二軍團ノ爲メ撃退セラレ

Metchka

後二日ヲ間テ即十一月十九日ニ於テ其兵力壹万二千人ヲ以テ「カヂキユーイ」

Kadikieui

ヲ襲ヒ尋ヒテ第十二軍團ノ左翼ニ對シ「メチカ」ニ侵入ス又功ヲ奏セス「ジヨ

Metchka

Jovan

ヴァン、グフリツク」ニ於テ「ロム」河ヲ渡リ遂ニ東方ニ退却セリ

Gflik

Lom

初メ「スレイマンパシヤ」出撃ノ目的ハ「バチン」ヲ略取シ直チニ「多腦」渡過点

Suleimanpacha

Batin

「シストヴア」ヲ衝カントスルニ在リ

Sistova

「スレイマンパシヤ」ハ猶此目的ヲ達セントシテ十一月廿六日歩兵五十一大隊

Suleiman pacha

騎兵十六中隊砲兵九中隊總計其兵力三万二千人ヲ率ヒ再ヒ「メチカ」ニ侵入シ

Metchka

「トルステニツク」ヲ畧取セントセリ

Trstenik

「トルステニツク」ハ魯國第十二軍團固守シ土軍遂ニ其目的ヲ達セス復タ「ロ

Lom

ーム 河ヲ渡リ退却ス

此日魯軍死傷七百六十人土軍千二百人ヲ亡フ

十二月四日「スレイマンパシヤ」ハ反對ノ方向即魯軍ノ右翼ニ向テ攻撃セリ魯

Suleiman pacha

軍ノ右翼ハ「ストラタルスカ」河ニ沿フテ東ニ正面セリ

Slatarska

此時ニ當リ「テシプカ」峠ノ魯軍指揮官「ラデスキー」ハ其兵力五千人ヲ以テ其

Schipka

Radezky

左翼ヲ「エレナ」ニ延伸シ其前哨ヲ「マリアン」附近マテ前進セシメ第十一軍團

Elena

Marian

ノ前哨ト連絡セリ其任務ハ東方及東南方ニ對シ動作スルニアリ

此支隊ノ左翼ニ接シ第十一軍團ノ歩兵第十一師團ハ「ストラタルスカ」河ニ沿ヒ

Slatarska

「ヂユナン」及「フレセレウチ」ノ線ヲ占領ス

Dinan

Fraserovo

此魯軍ニ對シ「スレイマンパシヤ」ハ三万人ヲ率ヒ「オスマンバザール」ヨリ

Suleiman pacha

Osmanbazar

「エレナ」及「チルノウア」ニ通スル道路ヲ進ミ攻撃ス

Elena

Tirnova

此ノ戰ニ於テ魯軍兵士二千人砲四門ヲ失ヒ「スタハリツア」ニ退却シ再ヒ此ノ

Stararita

地ニ於テ土軍ノ撃破スル所トナリ遂ニ南方「マリアン」ニ退却スルニ至レリ
土軍ハ此ノ機ニ乘シ「スラタルスカ」河地區ヨリ西方ニ魯軍ヲ追撃セス其主力
ヲ「スタ、リツア」附近ニ集合セリ
Statariska

茲ニ於テ魯軍ハ増援兵ヲ招クヲ得タリ即十二月五日右翼ノ背後ニアル第四狙
撃旅團及第十一師團ノ一旅團ヲ「マリアン」近傍ニ招致セリ
Stataritza

十二月六日午前「ナルノバ」南方ニ半師團來着シ同日正午魯軍ハ「スタ、リツア」
「ティノヴァ」
Tirnova 附近ニ攻撃ス

土軍勇戦能ク拒ク然レモ終ニ東方ニ退却ス

此ニ至リテ魯軍ハ「スラタルスカ」河孟ヲ全ク占領スルヲ得タリ
Statariska

次テ十二月七日魯軍ハ歩兵三十三大隊騎兵十八中隊半砲百四十五門ヲ以テ

「ナスマンバザール」ニ集合スルヲ得セリ此ニ於テ東方ノ魯軍ハ危険ヲ脱シ其
Osmanbazar 兵力土軍ト全ク足敵スルニ至レリ

「プレブナ」
落陷

編者記ス此戰闘タルヤ兩軍勝敗ノ決ヲ爲セシモノナリ且ツ此戰史中最モ有名ノモノナリ故ニ研究スヘキ事項亦ダ少ナカラズ然ルニ本編記スル所ハ稍省略ニ過クルノ憾ナキ能ハス余ハ此第十ノ筆記ニ依リテカラス故ニ此處之レヲ此處

「ナスマンバシヤ」ハ已ニ全ク其ノ糧食彈藥ヲ用ヒ盡シ維持スヘカラサルヲ悟
Osman pacha リ魯軍ノ包圍線ヲ西方ニ向テ突撃スルニ決セリ此ノ突撃ハ實ニ千八百七十七
年十二月十日ノ事ナリ

魯國軍及羅馬尼軍ハ「プレブナ」ヲ堅固ニ繞圍シ漸々四面ヨリ之ヲ蹙ス
Plevna

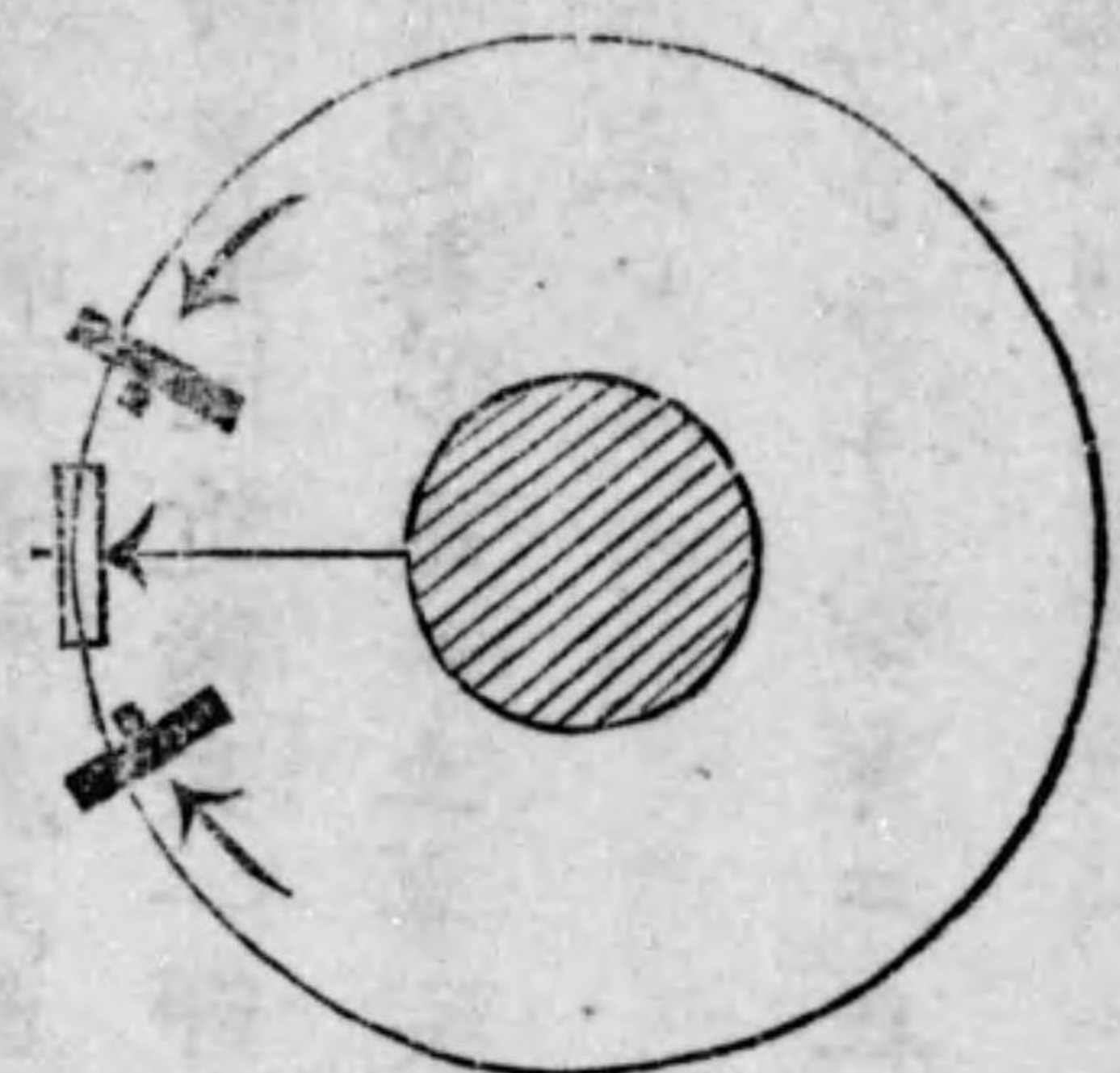
魯軍ハ「ナスマンバシヤ」ノ突撃ヲ施行スルニ三日前已ニ是ヲ偵知セリ故ニ其
Osman pacha ノ突撃正面ニ對シ豫メ魯國擲彈軍隊ヲ備フ

土國突撃隊ハ最初其正面ニ於テ魯國擲彈步兵ニ衝突シ多ク其砲臺及野堡ヲ略
取セリ然レモ近衛兵一師團ハ突撃隊ノ左翼ニ當リ又第五師團ノ一旅團ハ其右

翼ヨリ逆撃シ遂ニ土軍突撃其効ヲ奏セス「ナスマンバシヤ」ハ退却セサルヲ得
Osmanpacha サルニ至レリ

此ノ「プレブナ」突撃ニ在テモ嘗テ普佛戰役ニ於テ實行セシ包圍線突撃ト同現
Plevna 像ヲ呈セリ

ニ補填スル
ヲ欲セス依
テ別冊附録
トシテ一節
レブナ一節
落ノ戦況又
其前後ノ景
状ヲ記載シ
以テ参考ニ
供ス



一方ヨリ突撃スルニ方リ此レニ對スル正面ヲ擊
退スルモ其包圍線ノ兩側面ノ部隊同時ニ其突撃
隊ニ對シ側撃ヲ施ス然ルハ突撃隊ハ三面敵ニ
當ラサルヲ得ス

千八百七十年及七十一年ノ役佛軍「メッツ」及ヒ

「パリ」ニ於テ屢々突撃ヲ施セシモ遂ニ其ノ効ヲ

Paris

奏セス「ナスマンパシヤ」ノ魯軍ニ對スル突撃ノ

Osman pacha

景況亦之レニ異ナラサリシ

故ニ「ナスマンパシヤ」ハ西方ニ向テ突撃セシモ兩側面ノ魯軍ハ突撃隊ノ空虚
ニ乘シ土軍ニ侵入シ遂ニ「プレブナ」ヲ陥ルヲ得シナリ

Osmanpacha

Plevna

此ノ突撃ニ際シ「ナスマンパシヤ」自ラハ負傷シ其部下將卒約五千人ヲ失フ然

Osman pacha

レモ猶其旗下ニ將校二千百人兵卒四万人(負傷者ヲ算入セス)砲四十七門ヲ有

ス同氏ハ此ノ現兵ヲ以テ遂ニ魯國ニ降服スルニ至レリ

初メ「ナスマンパシヤ」ノ「プレブナ」ニ據ルニ方テヤ其近傍更ニ防禦工事ノ設

Osman pacha

Plevna

置ナシ同氏ハ漸々其工事ヲ施シ遂ニ百四十五日間魯軍包圍線ノ中ニ在テ維持
セリ其ノ終ノ五十日間ニ於テハ糧食彈藥及兵員ノ補填ヲ絶タレシ

「プレブナ」最後ノ戦ニハ其兵力五万人砲百門ヲ以テ魯軍ノ十一万二千人砲五
百十八門ヲ羈繫セリ此レニ因テ觀レハ魯軍ノ土軍ニ比較シ優勢ナルヤ明了ナ

Plevna

リ實ニ魯軍ハ其砲煩ノ如キハ五倍強ノ多キヲ有ス然レモ「ナスマンパシヤ」突
撃ニ際シテハ尚魯軍ニ二千人之死傷アリ土軍奮闘ノ狀見ル可キナリ

Osman pacha

魯軍「プレブナ」攻撃ニ於テ其最初ヨリ失フ處三万五千乃至四万人(患者ハ算

Plevna

入セス)ヲ以テ數フ茲ニ其陣亡兵員ヲ明了ニ掲載スル能ハス然レモ「プレブ
ナ」攻撃終始ニ在テ魯軍失フ所少モ「プレブナ」防禦ノ土軍全兵力ニ當ル可シ

Plevna

「プレブナ」ニ於ケル「ナスマンパシヤ」ノ防禦ハ實ニ勇敢ト忍耐トヲ以テ施行

Plevna

Osman pacha

セリ其勇敢耐忍ハ魯軍ノ大ニ賛嘆スル所タリ

魯國本營ニ於テ「プレブナ」俘虜ノ土軍將卒ヲ特ニ優待セシヲ以テ證ス可シ

Plevna

「オスマンパシヤ」*Osman pachha*「プレブナ」突撃ノ後二日即十二月十二日ニ於テ土將「スレ

Plevna

Sulei-

イマンパシヤ」モ亦出撃セリ

man pachha

「スレイマンパシヤ」ノ此出撃ハ「プレブナ」ノ降服ヲ知テ爲セシカ或ハ「プレ

Plevna

Plevna

ブナ」ヲ援助セントノ目的ヲ以テ實行セシヤハ明了ナラス

魯軍ノ左翼ニ對シニ万九千乃至三万人ノ兵力ヲ以テ「ルーチユツク」ヨリ南方

Routschnuk

「カヂキユーイ」ヲ襲ヒ遂ニ「メチカ」ニ侵入セントセリ

Metchka

茲ニ於テ「ダモツラ」及「メチカ」ノ線ニアル魯軍第十二軍團ノ戦況甚困難トナ

Damogira

Metchka

レリ

因テ魯軍第十三軍ノ半師團ヲ援助トシ南方ヨリ前進セシメ「ダモツラ」ヨリ土

Damogira

軍ノ左側面ヲ攻撃シ同時ニ「トルステニツク」ヨリ逆撃ス土軍死傷三千人遂ニ

Trestenik

十二月十二日
土將「スレ
イマンパシヤ」
ノ突撃

プレブナ
結局ノ評

「ルーチユツク」ニ退却スルニ至レリ

Routschnuk

後「スレイマンパシヤ」ハ其兵力ヲ「ラスグラト」ニ集合シテ退却セリ其左翼

Suleiman pachha

Rasgrad

「エレナ」附近ノ諸兵ハ「バルカン」東南「カザン」(「カザン」ハ「オスマンパサル」ノ

Elena

Balkan

Kazan

ヲ經テ東南ノ方向ニ退却セリ

「スレイマンパシヤ」ノ退却スルニ方リテハ己ニ「プレブナ」ハ陥落セリ茲ニ於

Plevna

テ魯土戦闘ノ勝敗決セリ

Suleiman pachha

「プレブナ」没落ノ後ニ於テ愉快ナル數多ノ戦争アリ然レモ其勝利常ニ魯軍ニ

Plevna

在リ土軍勇闘奮戦スルモ遂ニ其不幸ヲ恢復スルヲ得サリシ

今ヤ「プレブナ」最後ノ戦争ニ就キ是ヲ審判スルヲ以テ結末ト爲ス可シ

Plevna

十月下旬ヨリ十一月上旬ニ至ルノ間ニ於テ「オスマンパシヤ」ハ其兵站路ヲ失

Osman pachha

ヘリ此ノ時期ハ即チ「プレブナ」勝敗ノ問題トナルナリ

Plevna

冬期接近シ酷寒ノ時ニ方リ諸軍ハ常ニ露次シ加之糧食彈藥竭乏スルニ及ンテ

「プレブナ」益其危急ヲ促セリ

此レヲ救助センカ爲メ土軍ハ「ソヒヤ」ヨリ兵須軍隊ヲ送致セリ
Plevna *Sophia*

土軍ノ爲セシ此方法ハ實ニ「プレブナ」ヲ救フニ足ラサルナリ

此レカ爲メニハ土軍野戰團隊ヲ擧テ魯軍ノ包圍線ニ對シ八方ヨリ攻撃シ魯軍ノ包圍線ヲ八方ニ誘繫セハ其包圍線ハ自ラ薄弱ニ至ル可シ

此時ニ乘シテ一擧出撃セハ其目的ヲ達スルヲ得シナラン

此ノ時ニ當リ土軍ハ集合團隊ノ一隊ヲ要ス此團隊ハ直接援助トシテ包圍線ノ一點ニ向テ決戰ノ任ニ當ルモノナリ即八方ヨリ間接援助トシテ陽擊運動ノ機熟スルヲ待テ真ノ侵撃ヲ行フモノナリ

故ニ土軍「プレブナ」ノ包圍ヲ解カンニハ間接援助ノ軍隊ノ外直接援助ノ一團

隊ナカル可カラス此團隊ノ任務ニ當ル者誰カ即「スレイマンパシヤ」其人ナリ
八月上旬「メヘメアリー」ノ土軍總督タルニ方テハ「プレブナ」未タ孤立セス故
Plevna *Suleiman pacha* *Mehemet Ali*

ニ直接ノ援助ハ必用ニアラザリシナリ

此間ニ於テ土軍ノ得策トスル所ハ全力ヲ以テ「ビエラ」ヨリ「シストヴァ」ニ向

テ突撃スルニアリ「シストヴァ」ハ多腦河緊要ノ渡過點ナルヲ以テ魯軍背後ノ

連絡如何ニ關係スレハナリ

「メヘメアリー」ノ畫策ハ蓋シ茲ニアリシ然レモ「シプカ」峠ニ在ル「スレイマン
Mehemet Ali *Schipka* *Suleimanpacha*

パシヤ」ノ其命令ニ服セザリシヲ以テ遂ニ實行スルヲ得ザリシ

「メヘメアリー」ノ總督タルノ時ニ當リテハ「スレイマンパシヤ」ハ專ラ「シプ
Mehemet Ali *Suleiman pacha* *Schipka*

カ」峠ヲ攻撃セリ此ノ際亦「プレブナ」未タ危急ニ至ラス

然ルニ「スレイマンパシヤ」ノ代テ總督タルニ及ンテハ「プレブナ」ノ形勢一
Suleiman pacha *Plevna*

變シ戰況甚タ危殆ニ瀕シ其ノ兵站路ヲ失テ實ニ日夜直接ノ援助ヲ要スルノ時
ナリ
此ノ時ニ方リ「スレイマンパシヤ」ハ左ノ如ク處置セサルヘカラス
Suleiman pacha

陽擊運動ヲ以テ魯國軍隊ヲ欺騙シ集合團隊ヲ以テ四角要塞ヨリ「エレナ」^{Elena}「スタ、リツア」ニ向テ突撃スルニ在リ其法ハ全線ニ於テ魯軍ヲ迷誤セシメ其主
カヲ「ナスマンバザール」ニ集合シ然ル後「エレナ」^{Elena}「スタ、リツア」ノ魯軍ヲ擊
破スヘキナリ
^{Osmanbazar}

此ノ「スタ、リツア」攻撃ノ爲メニハ「シプカ」^{Schipka}嶺南方ニアル土軍ヲ招カサルヲ
得ス該軍隊ハ「バルカン」^{Balkan}山東方守備ナキ嶺ヲ踰ユルヲ良トス但シ「シプカ」ニ
ハ其一隊ヲ殘シ同嶺ニアル魯軍ヲ羈繫スルヲ要ス

此ノ如セハ「スレイマンパシヤ」ハ四角要塞守備兵ノ外猶八万人砲二百門及ヒ
制外軍騎兵數千ヲ有ス
^{Suleiman pacha}

實ニ「ルチユツク」^{Schoumla}「シユームラ」及「ドブルヂヤ」^{Dobrudsja}地方ノ警備ノ爲メ諸兵ヲ配置
シテ尚其兵力五万人煩砲百五十門ヲ「ナスマンバザール」ニ集合スルヲ得且
「シプカ」^{Schipka}嶺南方ニハ四万五千人ノ土軍「シプカ」ヨリ「ケザンリツク」ニ至ル線
^{Osmanbazar}
^{Schipka} ^{Kezanlik}

ヲ占守セリ

故ニ「スレイマンパシヤ」ハ七万乃至八万ノ兵力及百八十門乃至二百門ノ砲煩
ヲ以テ西方「ナルノバ」^{Tihova}ニ向テ攻勢ニ轉スルトハ容易ナリシナリ
此兵力ヲ用ヒ「シプカ」嶺ニ占陣セル魯軍第八軍團ヲ其左翼ヨリ漸々席捲シ第
十一軍團ハ正面ヨリ撃破スヘシ然ラハ則チ魯軍延長ノ戰鬥線ハ撃破スルヲ得
シナラン

實ニ魯軍ハ遠隔ノ地ヨリ増援兵ヲ招カサルヲ得ス終ニ之レヲ要スル數多ノ日
數ヲ利用シテ土軍此作戰ヲ計畫セハ其動作容易ナリシナラン

土軍ハ「ルーチユツク」^{Routschouk}附近ニ動作スルニ替テ「エトロポール」^{Etoropol}ニ動作セリ是レ
學理上ヨリ推考スルモ其當ヲ得サル明ナリ

「スレイマンパシヤ」ノ「シプカ」嶺南方ニ於テ背後ノ連絡ヲ取ルニ苦慮セシハ
甚ダシキ誤リナリ何ントナレハ八万人ノ兵力ヲ「ナルノバ」^{Tihova}ニ集結セハ魯軍
^{Suleiman pacha} ^{Schipka}

「シブカ」峠ヲ棄テ自ラ退却スルニ至ルベケレバナリ
 Schipka
 若シ土軍「チルノバ」ニ於テ敗北セハ其ノ退路ハ「バルカン」山東方ニ取ルヲ得
 Timova
 此時ニ方リ魯國ノ第十二軍團ハ「ルーチユツク」ニ於テ羈縻スルヲ得可シ
 Balkan
 歐羅巴諸國ニ於テ「スレイマンパシヤ」ハ如斯計畫スルナラント信セリ故ニ始
 Rontschouk
 ヲ魯軍本營ニ於テモ亦タ大ニ之ヲ苦慮セリ然ルニ土軍ノ作戰茲ニ出スシテ魯
 Suleiman pacha
 軍ハ戰畧上ノ危キヲ脱カレ遂ニ勝利ヲ得シハ實ニ僥倖ト謂フヘキノミ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第十一回 明治廿一年五月十一日

魯軍ハ「プレブナ」ヲ強襲スルノ不可ナルヲ悟リ策ヲ長圍ニ決シ遂ニ「オスマ
 Plevna
 ンパシヤ」ヲ降伏セシメタリ
 Osman
 「プレブナ」ヲ畧取スル時ニ方テ魯軍ノカム可キハ土國ノ野戰軍ト「プレブナ」
 Plevna
 ノ出撃ト一致スルヲ防クニアリ

此時ニ方リ魯國皇太子ハ要塞外ニアル土國野戰軍ト「ロム」河ニ相對峙ス
 Lom
 又將官「ラデツキー」ハ「バルカン」山脉「シブカ」峠ニ布陣シ將官「グールコ」ハ
 Radetzky Balkan Schipka Gourko
 「エトロポール」^{Balkan}「バルカン」ニ布陣セリ
 Etropol
 其他騎兵ノ大隊部ハ西方ニ向ヒ「ウイヂン」ニ對陣ス
 Widin

「プレブナ」陥落ト共ニ「オスマンパシヤ」ノ軍ハ全ク殲滅シテ魯國內部ニ捕虜
 Plevna Osman pacha
 トシテ送致サレタリ
 今ヤ「プレブナ」ニ縻繫セラレシ魯國衆多ノ軍隊ハ一時其任務ヲ果セルヲ以テ
 Plevna

魯軍本營ニ於テ更ニ他ニ之ヲ使用スルヲ得

羅馬尼侯ハ「プレブナ」ニ對セル魯軍及ヒ羅馬尼軍ノ指揮官タリ然レモ實際此

指揮官ハ唯表面ノミニシテ真ノ指揮官ハ「クリメー」戰役ニ於テ著名ナル魯國

將官「トトルベン」氏ナリシ

茲ニ至テ羅馬尼侯ハ歸國シ魯帝「アレキサンドル」陛下モ亦タ腦河ヲ超エテ歸

國セリ

羅馬尼軍ノ「プレブナ」ニ在ル其兵員三万人ハ「ウイデン」ニ行進スヘキノ命ヲ

受ク「ウイデン」ハ土耳其西境上ニ在リ已ニ該要塞ハ羅馬尼及「セルビ」國ヨリ

脅威シ居レリ

「プレブナ」附近ニアリシ魯軍ハ左ノ如ク配當セリ

一 近衛第三師團及第九軍團(二師團)ハ「エトロポールバルカン」ニ赴キ將

官「グルルコ」ヲ援助ス

此増援兵ハ十二月三十日迄ニ「エトロポールバルカン」ノ麓ニ達セリ故
ニ此地ニ在ル惣兵力ハ歩兵八十三大隊、騎兵六十中隊、及ヒ砲三百門(全
近衛軍團、第九軍團、近衛騎兵一師團其他數多ノ騎兵殊ニ「コザック」騎兵
及ヒ「テ、ベン」ニ在ル軍隊ノ一部分)ナリ

二、第四軍團ノ第十六師團ハ(「コザック」騎兵聯隊ヲ附加ス)「セルウイ」ニ
至リ將官「スコベレーフ」ノ指揮ニ屬シ「セルウイ」ヨリ「シプカ」峠ノ指
揮官「ラデスキー」ヲ援助ス

三、第三獵兵旅團ハ(三大隊)「ガブロバー」ニ至リ將官「ラデスキー」ヲ援助
ス但シ該旅團ノ第四大隊ハ「ロウアツ」ニ駐止シ「トウシヤン」軍隊ノ
司令官(第三歩兵師團長)ニ屬セシム

四、第四軍團ノ第三十師團ハ豫備トシテ「チルノバ」ニ至ラシム(第十一軍團
ハ「スレイマンパツレヤ」ノ爲メニ攻撃セラレ少ク退却ヲ要スルニ至タレリ
故ニ此豫備トシテ第三十師團ヲ送りシカ今ハ不用ニ屬スルヲ以テ將宜ラ

所ニ送レリ)

五、第二、第三擲彈師團ハ「ガブロバー」ニ向テ行進シ魯軍總督ノ直隸下ニ
屬ス

嘗テ述シ如ク今回ノ魯土戦争ハ「セルビ」ト土耳其ノ戦争ニ基因セルナリ

「セルビ」國
ノ出師準備
及「ブレブ
ト」一陷落後
魯軍西方ニ
於ケル作戦
計畫

「セルビ」ハ前年土耳其軍ノ爲メニ敗ラレタリ
「ブレブナ」陷落第三日ニ於テ「セルビ」ハ宣戦ヲ布告シ其民兵凡五万五千人ノ
出師準備ヲ命シ左ノ如ク部署セリ

三万人ハ「ピロツト」ヲ經テ「ソビヤ」ニ向ヒ行進ス

一万人ハ南方「ノビパザール」ニ攻勢ヲ以テ前進ス

一万五千人ハ「セルビ」國ノ西南ト西ノ國境ヲ守備ス

「セルビ」軍ノ首ナル目的ハ土耳其軍ノ左翼「ソビヤ」ヲ脅威シ其兵力ヲ西方ニ
羈繫シ且ツ「エトロポール」「バルカン」ヨリ「ソビヤ」ニ向ヒ前進スル將官
Etropol Balkan Sophia

「グルルコ」ノ軍隊ト「セルビ」軍ノ「ピロツト」ヨリ行進スル諸隊ト連合センカ
爲ナリ
Gourko Serbia Piroto

加之「セルビ」軍ハ「ソビヤ」ニ向ヒ前進シ將官「グルルコ」ノ「エトロポール」
ルカン」ヲ踰ユルヲ容易ナラシメント欲ス
Serbia Sophia Gourko Etropol Balkan

將官「グルルコ」ハ「トロジヤン」ヨリ「コリビ」ヲ經「エトロポール」「バルカン」
ノ南溪谷ニ出テ、集合セントス
Gourko Trojan Kolibi Etropol Balkan

魯軍ハ土國ノ中心即「コンスタンチノール」ヨリ遠隔シテ「バルカン」山ヲ踰
ヘントス即チ魯軍ハ右翼ヨリ漸々「バルカン」山ヲ踰エ其他ノ軍隊ヲシテ山ヲ
踰ユルヲ容易ナラシメントスルナリ
Constantinople Balkan

將官「グルルコ」ノ南進シテ「ピリポリ」ニ達シ隘路ヲ開クヤ時將官「カルツ
ナフ」モ亦續行セントス
Gourko Philippoli Kartsof

而シテ「アンドリノツプル」ニ達スルニ及ンテハ「チルノバ」ヨリ來ル將官
Andrinople Timova

「ラデスキー」ノ軍隊ト合セントス
 Radetzky
 故ニ若シ土國ノ軍隊「ソヒヤ」ニ集合セントセハ魯國將官「ラデスキー」ノ爲メ
 Radetzky
 ニ其背後ノ連絡（「コンスタンチノツ」ヲ斷絶サル、ノ恐レアリ）
 Sophia
 土軍「ソヒヤ」ニ集合セスノ其東方ニ集合セハ西方ヨリ行進スル「セルビ」軍ト
 Serbia
 「プレブナ」ヨリ來ル魯軍ハ「ソヒヤ」ニ集合スルヲ得ヘシ
 Sophia
 此作戰ノ方法ハ魯軍ノ兵力土軍ヨリ優勢ナラサルモ容易ニ施行シ得可シ況ヤ
 Plevna
 目今魯軍ノ優勢ナルニ於テオヤ
 土軍ハ初メ作戰計高ナカリシナリ故ニ土軍ノ大部ハ多腦南方四角要塞ニ又一
 部ノ兵力ハ「コンスタンチノツブル」ニ在リタリ
 Constantinople
 土軍本營ハ十二月中旬ニ於テ四万人ノ兵力ヲ「バルカン」南方へ送ルノ訓令ヲ
 Balkan
 發セリ茲ニ於テ中央ト右翼ノ諸兵ヲ「ラスグラド」ニ集合シ該地ヨリ鐵道ヲ以
 Rasgrad
 テ「ワルナ」ニ送り此地ニ於テ船ニ搭載シ次テ「コンスタンチノツブル」ニ
 Varna
 Constantinople

送レリ

是レニ反シテ「エレナ」「スタ、リツア」ニ在リシ土軍ハ徒歩陸行シテ「スリブ
 Elena Stari-tza
 Shvno
 ノ」ニ至レリ此行軍タルヤ天候ノ爲メ甚タ困難ヲ極ム而シテ
 將官「グルーコ」ノ「エトロポール」「バルカン」ヲ出ツルヤ土軍四万人ハ「タ、
 Gourko Etropol Balkan
 ルバザルジツク」ニ鐵道ヲ以テ集合セリ（「タルバザルジツク」ハ「タ、ルバザルジツク」ノ西ニ在リ）
 Pazardjik Philippopli
 土軍ノ此集合ハ時機己ニ晚シ何トナレハ「グルーコ」ハ己ニ全ク「バルカン」山
 Gourko Balkan
 ヲ越ヘシ時ナリシヲ以テナリ
 故該土軍ハ「ソヒヤ」ニ通スル峠ヲ警戒スルノ機ヲ失セシノミナラス將官「ラ
 Sophia
 デスキー」ノ「シプカ」峠ヲ出テ前進スルニ方リ實際「コンスタンチノツブル」
 Radetzky Schipka
 Constantinople
 ニ對シ背後ノ連絡ヲ絶タレシナリ
 土軍ノ此運動宜シキヲ得サリシカ爲メ益々困難ヲ増加セリ
 魯軍此作戰ヲ始ムルニ當テ土軍ノ配置ハ如何ナリシヤヲ左ニ述ヘン

將官「グルルコ」ノ率ユル「エトロポール」「バルカン」ノ軍ニ對シ土將「シアキ
Gourko Etropol Balkan
ールパシヤ」ハ四十五大隊ヲ以テ「アラブコナク」(「マ」山ノ諸脈相集ル所ナリ)「Chaki
rpacha Arabkonak」北方
ノ野堡ニ布陣ス

既ニ前回ニモ述シ如ク土軍ハ北方山脈「アラウツア」ニ於テ魯軍ニ抗抵セリ魯
Pravtza
軍ハ左翼ヨリ陽撃セシヲ以テ土軍ハ南方山脈ニ退キ再ヒ是ヲ防禦セリ

土軍「アラブコナク」北方陣地ハ堅固ナル良陣地ナリ故ニ將官「グルルコ」ハ増
Arabkonak
加兵ヲ得サレハ攻撃スル能ハサルヲ以テ只之ヲ監視セリ

「シアキイルパシヤ」ハ其右翼警戒ノ爲メ「スラナツア」ニ十五大隊ヲ配置
Chakir Pacha Slatitza
セリ

魯軍ハ此土軍ニ接近セシム敢テ攻撃セス只之ヲ監視スル耳

「アラブコナク」ニ在ル「シアキイルパシヤ」ハ「ルナコボ」ヨリ「チガシヤ」ニ
Arabkonak Chakir Pacha Loulikovo Ogaja
通スル峠ニ一支隊ヲ派遣セリ其兵力ハ歩兵六大隊ナリ

又「ソヒヤ」ニ十二大隊ヲ置キ守備セシム
Sophia

註 土國一大隊ハ其兵員五百人トス

故ニ將官「シアキイルパシヤ」ノ兵力ハ總計三万五千人トス然レ共殊ニ傷ムヘ
Chakir Pacha
キハ砲兵及騎兵ノ欠乏ニ在リ

土國ノ弱點ハ「ソヒヤ」ニ在リ故ニ魯軍ハ此弱點ニ向ヒ行進セルナリ
Sophia
魯軍ノ「バルカン」山ヲ經過セシハ十二月中旬ヨリ一月初旬ニ涉レリ此兩月間
Balkan

魯將「グル
ルコ」
「バル
カン」
山ノ
經過
動作

將官「グルルコ」ハ堅固ナル「アラブコナク」陣地ニ向テ正面ヨリ陽撃シ側面ヨ
Gourko Arabkonak
リ實撃ヲ施行セリ

十二月二十五日將官「グルルコ」ハ前進ヲ始ム然レモ砲兵ノ過半数ハ携行スル
Gourko
ヲ得ス此レ山間ヲ通過スルニ障碍トナルヲ以テナリ

將官「グルルコ」ハ右迂回縱隊ヲ編成セリ其兵力左ノ如シ
Gourko

歩兵二十一大隊

騎兵十六中隊

砲四十四門

此縱隊通過ノ爲メ工兵隊ヲ前方ニ進マシメ専ラ山間ニ道路ヲ開設セシメタリ

工兵隊ノ新ニ開設セシ道路ハ「チユーリヤク」ヨリ「エレスニツア」ニ至ル是レ

「エレスニツア」ヨリ「タスキッセン」ヲ經テ「アラブコナク」ノ土軍ノ陣地ノ左

側ニ出テンカ爲メナリ

魯軍ノ右迂回縱隊ノ南進スルニ當リ「ソヒヤ」ノ土軍ニ對シ其右翼ヲ警戒スル

爲メ右側支隊ヲ編成ス其兵力左ノ如シ

歩兵五大隊

騎兵六中隊

砲 八門

此右側支隊ハ山嶺ノ最高点「ウーマルガツ」ヲ經テ南方ニ下リ本縱隊東方ニ

轉進スルニ際シ「ソヒヤ」ニ向テ警戒ス

又「ソヒヤ」ノ西方山脈ニアル土軍ニ對シ魯軍一支隊ヲ編成ス其任務ハ土軍ヲ

「チガシヤル」チコボ」ノ方向ニ羈縻スルニ在リ其兵力左ノ如シ

歩兵五大隊

騎兵八中隊

砲 三十門

將官「グール」ハ又「エトロポール」ヨリ道ナキ山ヲ踰エ南方「ミルコボ」ニ出

テ西ニ轉進シ土軍ノ右側ヲ脅威セン爲メ左迂回縱隊ヲ編成ス其兵員左ノ如

歩兵五大隊

騎兵四中隊

砲 十二門

此左迂回縱隊ノ左側ヲ掩護センカ爲メ左側支隊ヲ編成ス其兵力左ノ如シ

歩兵五大隊半

騎兵二中隊

砲 二門

此左側支隊ノ任務ハ「スラナツア」ニ向テ陽撃ヲ爲スニアリ

Stativa

土軍陣地ノ正面ニ對シ魯軍ハ左ノ兵力ヲ置ケリ

歩兵二十六大隊

騎兵二中隊

砲五十二門

此ノ諸隊ハ在來ノ陣地ニ在テ歩砲射撃ヲ以テ土軍ヲ羈繫シ諸迂回縱隊ノ作戰

運動ヲ容易ニスルニ在リ

十二月中ハ土軍「アラブユナク」前方山間ニ於テ露營ヲナセリ之レカ爲メ患者頗ル多シ

Arabkonak

魯軍ハ十二月二十五日濃霧ニ乘シ前進運動ヲ始ム

右迂回縱隊ハ工兵ノ開設道路ヲ取リテ行進スルニ頗ル困難ヲ極ム此ノ徒歩道ハ多クハ堅氷ヲ段形ニ鑿開セシモノナリ行進ノ初メハ天氣稍晴朗ナリシモ四日ヲ歷廿八日山ノ降路ニ及ヒシ時大ナル降雪アリ此ノ大雪ハ二十九日ノ夜ニ及ヘリ

砲煩ハ各門繩ヲ以テ挽行スルニ兵卒六十人ヲ要ス就中困難ナリシ滑ナル氷上ヲ大砲ヲ下スニアリ挽馬ハ注意シテ口ヲ取ルモ轉倒スルヲ屢々ナリ此ノ如キ堆雪中ニ於テ屢徹夜露次セリ

魯軍如斯困難中ニ在ルモ土軍ハ逆撃ヲ爲サリシ故ニ魯軍ノ前衛ハ敵ノ支障ナ

ク南溪谷ニ達スルヲ得タリ

十二月二十六日前衛歩兵ハ「チユーリアク」ニ達シ此ニ駐止シ背後諸隊閉進ヲ

Tchouriak

掩護シ翌廿七日前衛歩兵ハ「エレスニツア」ニ至リ其一部隊ハ東方ニ轉進シ

Elesniza

「ニエユソウチ」ニ行進ス

Niyogosovo

已ニ峠ヲ越エシ格薩克騎兵聯隊ハ「ソヒヤ」ニ通スル街道ヲ行進ス二十八日前

衛歩兵ハ悉ク「ニエユソウチ」ニ集合シ東方「タスキツセン」ニ對シ監視セリ

Niyogosovo

Taskissen

三十日ニ至リ右迂回縱隊ノ后尾「エレスニツア」ニ達ス

Elesniza

右迂回縱隊「バルカン」山ヲ踰ルニ六日間ヲ費セリ

Balkan

右迂回縱隊ノ「エレスニツア」ニ達スル一日前即二十九日ニ於テ右側支隊モ亦

Elesniza

タ「エレスニツア」ニ來着ス而シテ此ノ支隊ハ「ウーマルガツツ」ノ山ヲ登リテ來

Elesniza

Oumaratz

リシナリ其砲兵ノ一部ハ「ウーマルガツツ」ニ到着ス此砲煩ハ樹木ヲ伐リ橈ヲ

Oumaratz

作テ運搬ニ供セリ

右側支隊南方ニ下ルニ一ノ徒歩道ヲモ發見セサリシヲ以テ「チユーリアク」ニ
 於テ本縱隊ニ合セサルヲ得サリシ *Tchouriak*

此諸軍隊ノ南方ニ下リ集合スルニ至ル迄格薩克騎兵聯隊ハ「ソヒヤ」ニ對シ監
 視セリ *Sophia*

此騎兵聯隊ハ土軍ノ運送車二輛ヲ奪略シ且「ブーガロヴ」ハ敵ノ守備スルヲテ
 偵知セリ *Bougarov*

近衛騎兵二旅團ハ十二月卅日「タスキスセン」ニ達シ直ニ同高地ヲ偵察セリ此
 地ハ嘗テ土軍ノ占領セシ所ナリ *Taskissen*

土軍ハ魯軍ノ迂回兵ニ對シテハ一モ爲スヲナク殆ント了解シ得サル如ク守勢
 ナ固持セリ魯軍ノ諸縱隊困難ヲ冒シテ山ニ登リ遂ニ南下シテ集合スルヲ全ク
 袖手傍觀セリ

魯軍ノ迂回兵ニ對シ土軍ノ爲セシハ只一師團ヲ「タスキスセン」ノ方向ニ送
Taskissen

リ「アラブコナク」ノ陣地ヲ掩護セシノ事アルノミ

將官「*Arabkonak* グールコ」ハ右迂回縱隊ヲ自ラ率ヒ三十一日ニ於テ優勢ノ兵力ヲ以テ

「マルコセウチ」*Gourko* 「タスキスセン」ニ到着ス

同時ニ歩兵五大隊砲兵二中隊ヲ「ソヒヤ」ニ向ワシム又騎兵聯隊ヲ南方「*Taskiessen* ジエ

ニカン」ニ前進セシム *Sophia*

廿八日以來「タスキスセン」*nikan* 「マルコセウチ」ニハ魯軍一師團ノ兵力集合セリ

將官「*Taskiessen* グールコ」ハ土軍ノ「アラブコナク」陣地ニ對シ猛烈ニ歩砲ノ射撃ヲナシ

土將「*Gourko* シアキールパシヤ」ヲシテ魯軍ノ本攻撃ハ北方ヨリ爲スモノト迷誤セシ

メントス *Arabkonak* *Chakir Pacha*

「シアキールパシヤ」ハ此佯撃ヲ悟リ「タスキスセン」*Chakir Pacha* 「マルコセウチ」ヨリ逆撃

ヲ施行セリ *Taskiessen* *Malkocevo*

此ヨリ先キ騎兵二旅團「*Smovsko* スモフスコ」ニ前進ス其目的ハ土軍ノ背後「*Petrichevo* ペトリシ

エボ」ノ連絡ヲ絶ツニアリ

然ルニ道路非常ニ惡ク騎兵ノ行進最モ困難ナルカ爲メ該騎兵旅團ハ遂ニ「ス

モフスコ」ニ達スルヲ得ス *Smovsko*

茲ニ至リ土軍指揮官ハ狀況ノ危険ナルヲ察知シ「*Petrichevo* ペトリシエボ」ニ退却ヲ命

セリ

將官「*Gourko* グールコ」ノ歩兵十四大隊「*Malkocevo* マルコセウチ」及「*D. Komartza* ドルニーコマルツア」ニ前

進スルニ方リ土軍ノ之ニ抗戦スルモナシ只「*Mirkovo* ミルコウチ」ニ退却スル土軍ノ後

衛ヲ見ルノミ

如斯シテ「*Chakir pacha* シアキールパシヤ」ハ魯軍ノ追撃ヲ免レ退却セリ殊ニ魯軍左迂回縱

隊ノ來着セサルヲ以テ一層其ノ退却ヲ容易ニセリ

已ニ述ル如ク魯軍左迂回縱隊ハ「*Etropol* エトロポール」*Balkan* 「バルカン」ノ道ナキ處ヲ行退

シ二十七日ニ於テ絶頂ニ達シ廿八日及廿九日ニハ大雪ニ際會シ加フルニ寒風

凜烈タリ其軍隊ノ五十三人ハ凍死シ殆ント八百人ハ寒氣ノ爲メ手足關節ノ運動ヲ失エリ此ノ縱隊ハ「エトロポール」ニ還リ更ニ「スラチツア」ニ行進ス土軍亦抵抗セス

Etiopol

Slatitza

卅一日此前拒ハ「スラチツア」ヨリ西方「タケロベツ」ニ達ス

Slatitza

Takelopez

此間ニ於テ「シアキールパシヤ」ハ魯軍ノ包圍ヲ免レ遂ニ夜行軍ヲ以テ「ペ

Chakir pachha

トリシエボ」ニ達シ「タノルパサルナツク」ニ集合スル「スレイマンパシヤ」ノ

Tatar pazajick

Suleiman Pachha

軍隊ニ合セシナリ

魯軍「バルカン」南方ニ下ル時ニ方テ「シアキールパシヤ」ハ砲八門ヲ放棄シテ

Balkan

Chakirpacha

退却セリ

「スラチツア」ニ駐在セル土軍ノ一部ハ南方ニ一部ハ東方ニ退却セリ

Slatitza

二十八日將官「グールコ」ハ「ルーチコウチ」ヲガシヤ」ノ土軍退却スルノ報ヲ

Gourko

Loutikovo

Ogaja

得依テ「ルーチコウチ」ノ軍隊ヲ南方ニ招ケリ

Loutikovo

茲ニ於テ魯軍ハ首ナル目的ヲ達シ得タリ

一月二日魯軍歩兵十二大隊砲若干ヲ以テ「ゴルニブーガロウ」ニ向テ攻撃ヲ

G. Bougarow

施行セリ

此ノ地ハ土軍「ソヒヤ」掩護ノ爲メ支隊ヲ置キシ所ナリ

Sophia

土軍支隊ハ魯軍攻撃隊ノ爲ニ巧ニ射撃サレ遂ニ退却ス此ノ戦ニ於テ魯軍ハ僅

カニ二百五十人ノ死傷アリシモ土軍ハ負傷八百人死亡千六百人ニ及ヘリ

一月二日夕「グールコ」將官ハ「ゴルニブーガロウ」ニ増援兵ヲ送レリ

Gourko

G. Bougarow

二日午前「グールコ」將官ハ自ら近衛師團及狙撃旅團ヲ率ヒ「ソヒヤ」ニ向ヒ其

Gourko

Sophia

北方及東方ヨリ攻撃セントス

「ソヒヤ」ニ在ル土軍ノ守備兵ハ魯軍ニ對シ強キ抵抗ヲ爲スヲナク降伏セリ土

Sophia

軍ハ四日ニ於テ「キユスタンデル」ノ方向ニ行進スルヲ得タリ

Kustandel

「グールコ」將官ハ「ベルコマツ」監視ノ爲メ出セシ騎兵ヲ招ケリ此騎兵ハ行進

Gourko

Berkowatz

「グールコ」
ノ「ソヒヤ」
攻撃

魯將「クリ
ロフ」ノ「バ
ルカン」山
經過動作

中ナル「セルビ」軍隊ト連絡セリ

Serbie

將官「グールニコ」ノ「バルカン」山ヲ踰ヘシ後將官「カルツナフ」モ又「バルカン」

Gourko

Balkan

Kartsosf

Balkan

ヲ踰エタリ其右翼「テヘベン」ヲ經テ「グールニコ」ノ方ニ來レリ

Teteven

Gourko

「カルツナフ」將官ハ其左翼ヲ以テ「トロジヤン」ニ布陣シ歩兵二大隊ハ「ロバツ」

Kartsosf

Trojan

Lovatz

「監視」ノ爲メニ駐ム將官ノ旗下ノ兵力左ノ如シ

歩兵十五大隊

騎兵十中隊

砲 八門

此諸隊ハ「バルカン」山上最高點ニアリ又此地ハ僅カニ徒歩道ヲ有スル耳

Balkan

「カルツナフ」將官ハ其軍隊ヲ三梯團ニ區分シ「コロビ」ニ向テ發進セリ「コ

Kartsosf

Kolibi

リコ」ハ「トロジヤン」南方六吉米突ニアリ

Trojan

Kolibi

一月四日ヨリ六日ニ於テ砲煩ハ分解シテ橈ニ乘載セシメ馱牛ヲ徵發シテ之ヲ

牽カシム但シ砲一門ニ馱牛四十八頭ヲ要セリ此時寒氣烈シク列氏零點下二十
二度ヲ表セリ

進軍ノ爲メ徒歩道ノ雪ヲ掃ヒ道ヲ探リ木ヲ伐リ石ヲ除キ道路ヲ開通ス

山巔土軍ノ守備セシ角面堡在リ魯軍ノ先頭隊之ヨリ射撃ヲ受ケ敗北ス六日ノ

夜ニ至ルマテ此角面堡ニ對シ後方諸隊ノ來着ヲ待テリ

此間ニ於テ魯軍ハ「シプロウチ」ノ方向ニ迂回運動ヲ試ミシモ遂ニ其効ヲ奏

Sipkovo

セス

魯軍ノ土軍角面堡ニ對スル間將校二名兵卒六十人凍死ス

八日ニ於テ魯軍ハ東方ヨリ角面堡ヲ迂回スルヲ得タリ茲ニ於テ土軍ハ「テツ

Te

ケ」コルナレ」ノ方向ニ退却ス魯軍ハ格薩克騎兵ヲ放テ是ヲ追躡ス

Ke Kornare

土軍「コルナレ」ニ於テ「カルロバ」ヨリ増援兵ヲ得依テ魯軍ト會戦セシモ土軍

Kornare

Karlova

敗走其一部ハ「カルロバ」ニ他ノ一部ハ南方小「バルカン」ノ方向ニ退却セリ

Karlova

Balkan

「カルツナフ」將官ハ三師團ヲ「カルロバ」ニ集合シ東方「ラデスキー」ト「連絡セ
Kartsof Karlowa Radetzky
ントセリ

魯將「カルツナフ」ハ又南方ニ格薩克騎兵ヲ派遣セリ

Kartsof

土軍ノ「タハル」「バザルヂツク」ニ集合スル「」ノ遅緩セシハ既ニ述シ如シ土軍

Tatar-Pazarjik

如斯西方ニ軍隊ヲ集合セシモノハ魯將「ラデスキー」ノ「バルカン」山ヲ踰ルヲ

Radetzky

Balkan

防禦シ得ルト考定セシニ因レリ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第十二回 明治廿一年五月十八日

「プレブナ」
陷落後魯軍
ノ概況

「プレブナ」陷落後魯軍ハ更ニ「バルカン」山ヲ踰越ヲ勉ムルニ至レリ

Plevna

Balkan

魯軍ハ先キニ一回「バルカン」山ヲ踰越セリ即チ魯將「グルルコ」ノ東「ルーメ

Balkan

Gourko

Roumelie

リ」ニ向テ侵入ヲ企テシ時是ナリ此動作ハ實ニ剛毅ノモノト謂フヘシ然レモ

其寡少ノ兵員ヲ以テ能ク其目的ヲ達シ得サルヲ悟リ終ニ「バルカン」山ヲ踰ヘ

Balkan

テ北方ニ退却セリ而シテ本國ヨリ漸次來着スル軍隊ハ皆ナ「プレブナ」攻撃ニ

Plevna

使用セラル、ヲ以テ未ダ「ルーメリ」侵入ノ目的ヲ助成スルノ違アラズ然ルニ

Roumelie

今ヤ土將「オスマルパシヤ」ハ囚虜トナリシヲ以テ魯軍ハ再ヒ前ノ企謀ヲ實行

Osman Pacha

セントスルニ至レリ

此時ニ當リ魯軍ハ前回ノ侵入ニ比スレハ左ノ利ヲ有ス

第一 初メ「グルルコ」ノ侵入ヲ試ミシ時ニ比スレハ多クノ兵員ヲ使用スル

Gourko

ヲ得

第二 魯軍ノ爲メ最モ妨害ヲ爲ス土軍ヲ已ニ除去セリ
 第三 四角要塞内ノ土軍ハ既ニ劇シキ出撃ヲ爲サ、ルニ至レリ(是レヨリ先キ數回ノ出撃ヲ試ミシモ魯軍ハ常ニ之ヲ撃退セリ)

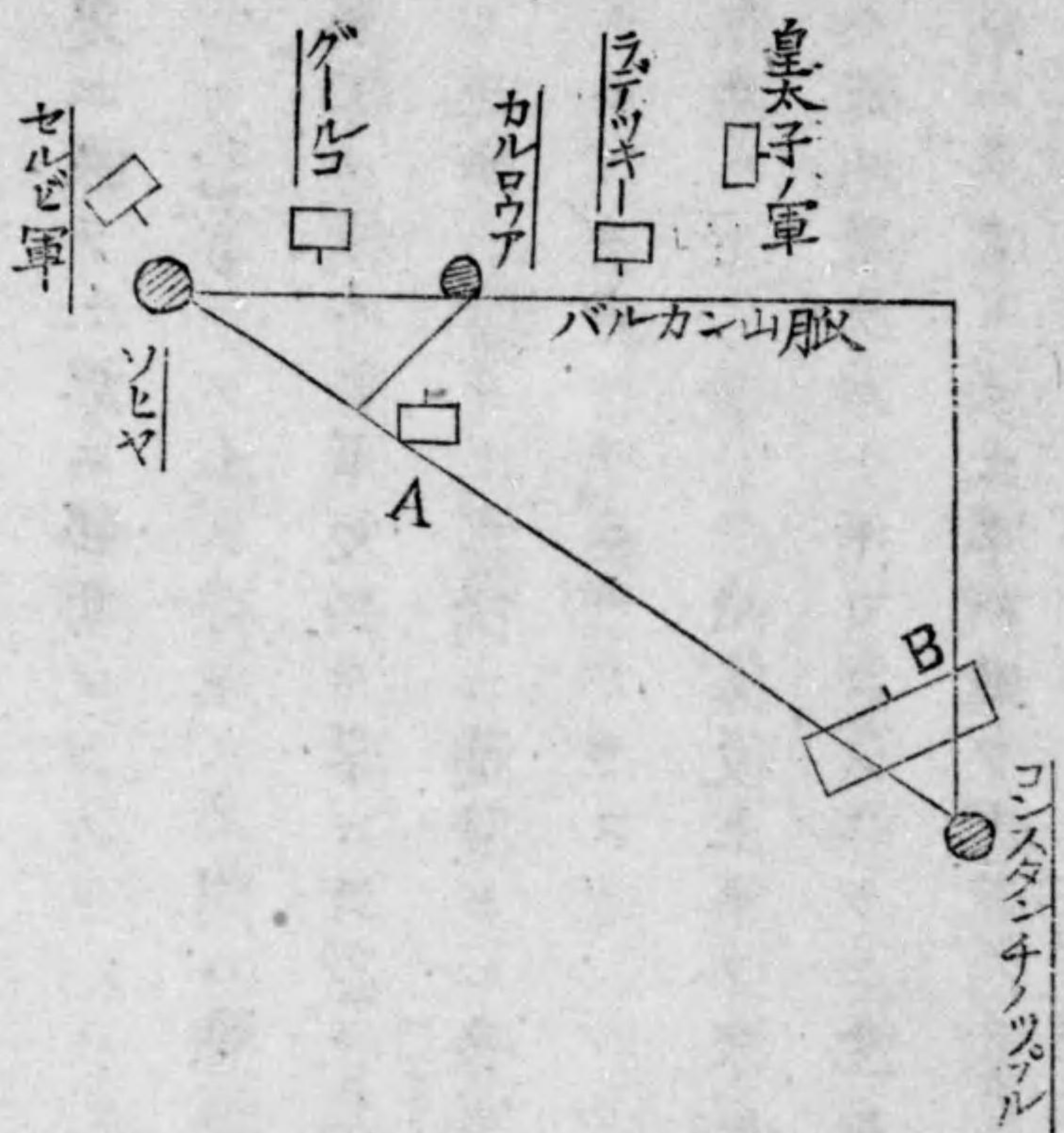
今ヤ魯軍ハ頗ル優勢ノ兵力ヲ以テ「バルカン」山ヲ踰エントス加之此目的ノ實行ヲ容易ナラシムルニ「セルビ」軍ノ援助アリ

此前進ニ際シ魯軍ハ至當ノ計畫ヲ爲セリ之ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、「バルカン」山ヲ踰ユルニ最モ右翼ヨリ強行ス
- 二、此地方ニ在テハ之ヲ要スレハ「セルビ」軍ト協力シテ働作スルヲ得
- 三、土軍若シ此地方ニ兵力ヲ集合セント欲セハ「コンスタンチノツプル」ニ通スル大道ヲ開放スルニ至ルノ不利アリ

「バルカン」山南方戦地ノ形状ハ左圖ノ如ク三角形ヲ爲ス

土軍若シ其兵力ヲAニ集合セハ魯軍ハ「シプカ」ヲ踰エテ前進スヘシ然ルルハ



魯軍ノ「コンスタンチノツプル」ニ達スルハ土軍ニ比スレハ疾シ即チ魯軍ハ其企謀ヲ果シ得ルニ至ラン故ニ魯軍ハ土軍ノ集合ハA点ニ非サルヲ察知スルヲ得ヘシ然ラハ魯軍ハ其右翼ヲ以テ「バルカン」山ヲ踰ユルハ至當ノ處置ト云フノ外評スヘキモノナシ

「セルビ」軍モ亦「ソフィヤ」近傍ニ向テ進ムヲ要ス即チ土軍ヨリ遠キ地ニ於

テ「バルカン」山ヲ踰ユルヲ至當ナリトナスナリ

土軍若シB点ニ集合セントスルカ魯軍ハ猶ホ右翼ヨリ踰山ヲ強行スルヲ良ト

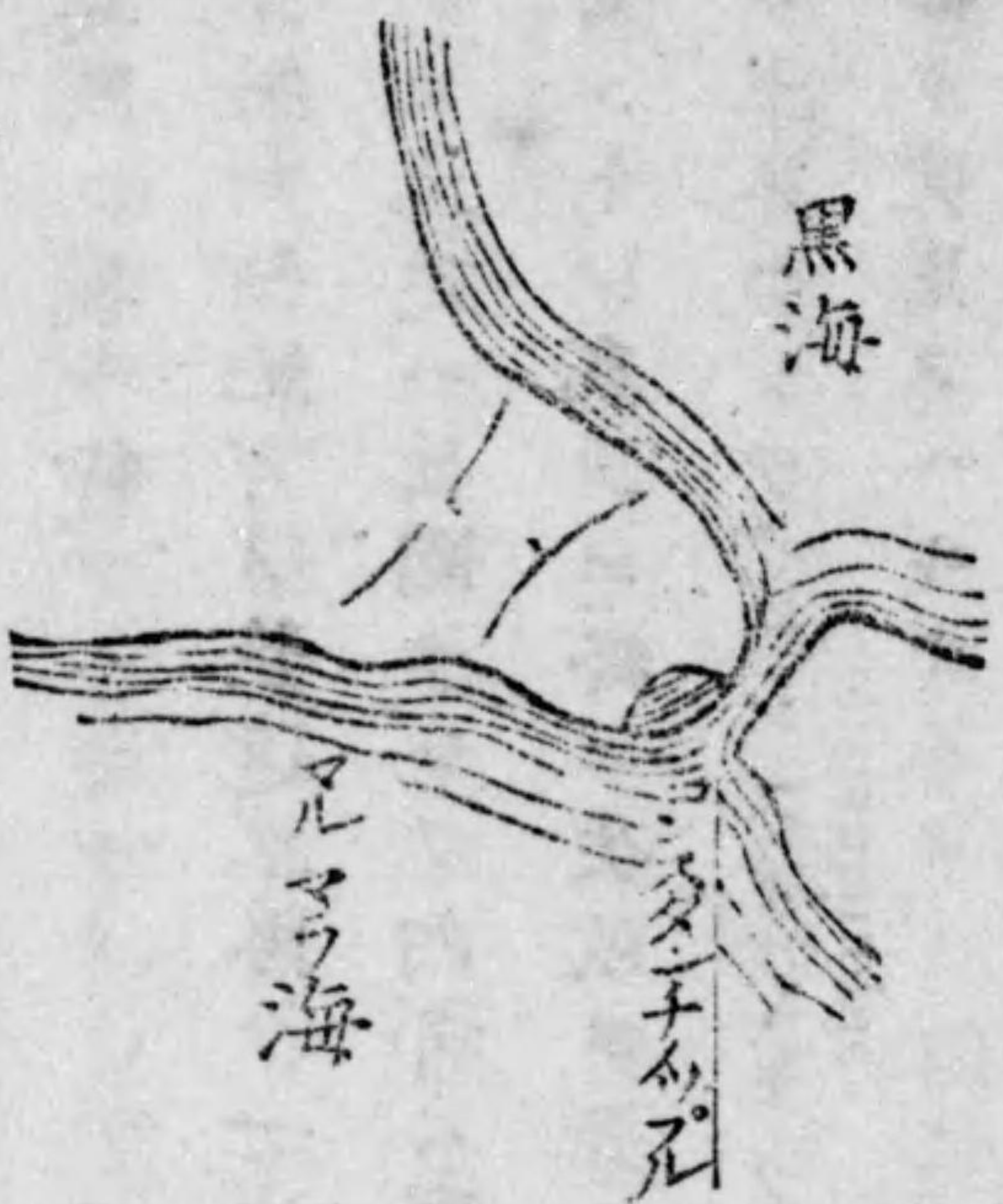
「プレブナ」
陥落後土軍
ノ概況

ス是レ此地方ハ土軍ノ兵力僅少ナル可ケレハナリ
故ニ土軍ノ情況ヲ察レ地形ニ就テ判断セハ魯軍ノ計畫ハ正當ニシテ且ツ單簡
ナリト云フヘシ
更ニ眼ヲ土軍ニ移サン

「プレブナ」ノ土軍存在スル間ハ魯軍ハ之レニ糜繋セラルト雖モ「プレブナ」
Plevna 陥落ノ後ハ魯軍大兵ヲ率ヒテ「エトロポールバルカン」ヲ踰エントスルヤ必セ
Etropol Balkan 此時ニ當リ土軍慢ニ優勢ナル魯軍ヲ扼止セントスルハ無謀ニシテ全ク無益
ナルヲ考ヘサル可カラス

然ラハ「プレブナ」陥落後土軍ノ採ルヘキ籌策如何曰ク實際土軍ノ爲セル働作
Plevna ハ好結果ヲ得ヘキモニノ非ラス殊ニ「バルカン」山ニ因テ魯軍ヲ防禦セントセ
Balkan シハ失當ナリ土軍ハ退テ「コンスタンチノツプル」附近ニ兵力ヲ集合シ以テ永
Constantinople ク魯軍ニ抵抗スルヲ謀ルヲ要ス

「コンスタンチノツプル」ノ地勢ヲ熟視スレハ左圖ノ如ク海中ニ突出ス而シテ
Constantinople 海ハ土軍ノ制スル所タリ又其附近ノ地形ハ防禦ニ便ナルモノアリ
故ニ土軍若シ「コンスタンチノツプル」ニ退縮スルモ魯軍ハ容易ニ之ヲ畧取ス
Constantinople ル能ハス



其他土國ノ爲メニ特別ノ利トナス所ノモ
ノハ奧國殊ニ英國ニ於テ「コンスタンチ
Constantinople ノツプル」ヲ魯國ノ有トナスヲ肯ンセサ
ルニアリ故ニ土軍若シ此地ニ退テ固守セ
ハ此戦役ハ竟ニ停止スルニ至ラン即チ英
國ノ如キハ殊ニ力メテ中裁ヲ爲スナラン

此場合ニ至リ土國若シ有力ノ軍隊ヲ集合シ居レハ講和ノ談判上ニ於テ敗後ニ
比スレハ大ニ差異アル結果ヲ得シナラン

若シ有力ノ軍隊アレハ英國ト同盟シテ再ヒ戰フヲ得ヘシ之レニ反シ敗后ニ在
テハ一ツモ爲スヘキナシ故ニ土軍ハ退テ「Constantinople」ヲ掩護シ以
テ英國ノ援ヲ待ツヘキナリ

土軍若シ諸地方ノ差遣軍隊ヲ一地ニ集合セハ其數蓋シ寡少ナルニ非サルナリ
然レモ土廷ハ他國ヲシテ内部ニ關涉セシムルヲ危疑セリ故ニ諸事悉ク自ラ處
置セントシ爲メニ終ニ失敗スルニ至レリ

若シ土軍ニシテ「Constantinople」ニ退結スル能ワサルハ其諸兵ハ左
ノ如ク使用スヘキナリ

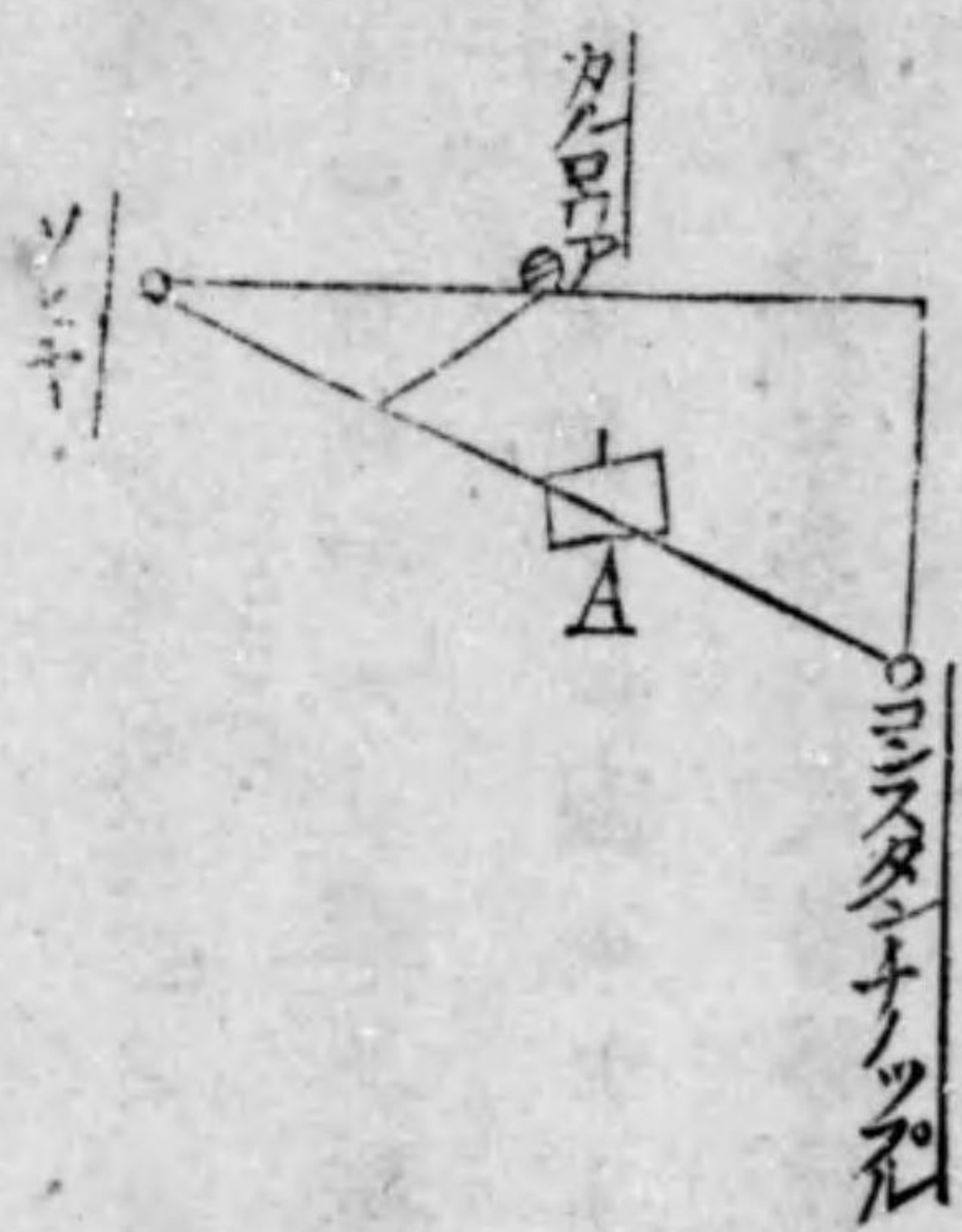
- 一、「バルカン」ノ全山ニハ唯監視支隊ノミヲ置ク而シテ此支隊ハ何時何レ
ノ地点ニ於テ魯軍ハ「バルカン」山ヲ踰ヘ來ルヤヲ知ルヲ以テ足レリ
トス
- 二、「バルカン」山南方ニ於テ一地点ヲ撰ミ此地ニ大ナル兵力ヲ集合スルヲ

要ス

魯軍若シ「バルカン」山ヲ踰ント欲セハ大軍隊ヲ一道ニ因テセスシテ必ス數所
ヨリ踰ルヤ明ナリ故ニ土軍ハ優勢ナル兵力ヲ以テ

魯軍ノ各縱隊山間ヨリ頭額ヲ出スニ從ヒ各個ニ擊
破スヘキナリ故ニ此地ハ守勢ノ性能ヲ以テ撰マス
シテ攻勢移轉ニ便ナルヲ要ス

上圖△ノ位置ノ如キハ則チ之レニ適當スル所ノモ
ノナリ



「エトロポール」ニアル軍隊ノ如キハ全ク之ヲ撤去スルヲ良トス

土將「スレイマンパシャ」ノ意モ亦此ニ在リシカ如シ即チ四角要塞内ノ兵ヲ

「タタールバザルナク」ニ集合セントセリ然レモ其期已ニ遅レタリ

又實際ノ戰鬥ヲ見レハ魯軍ノ「バルカン」山ヲ踰ユルニ際シテハ土軍ハ最モ分

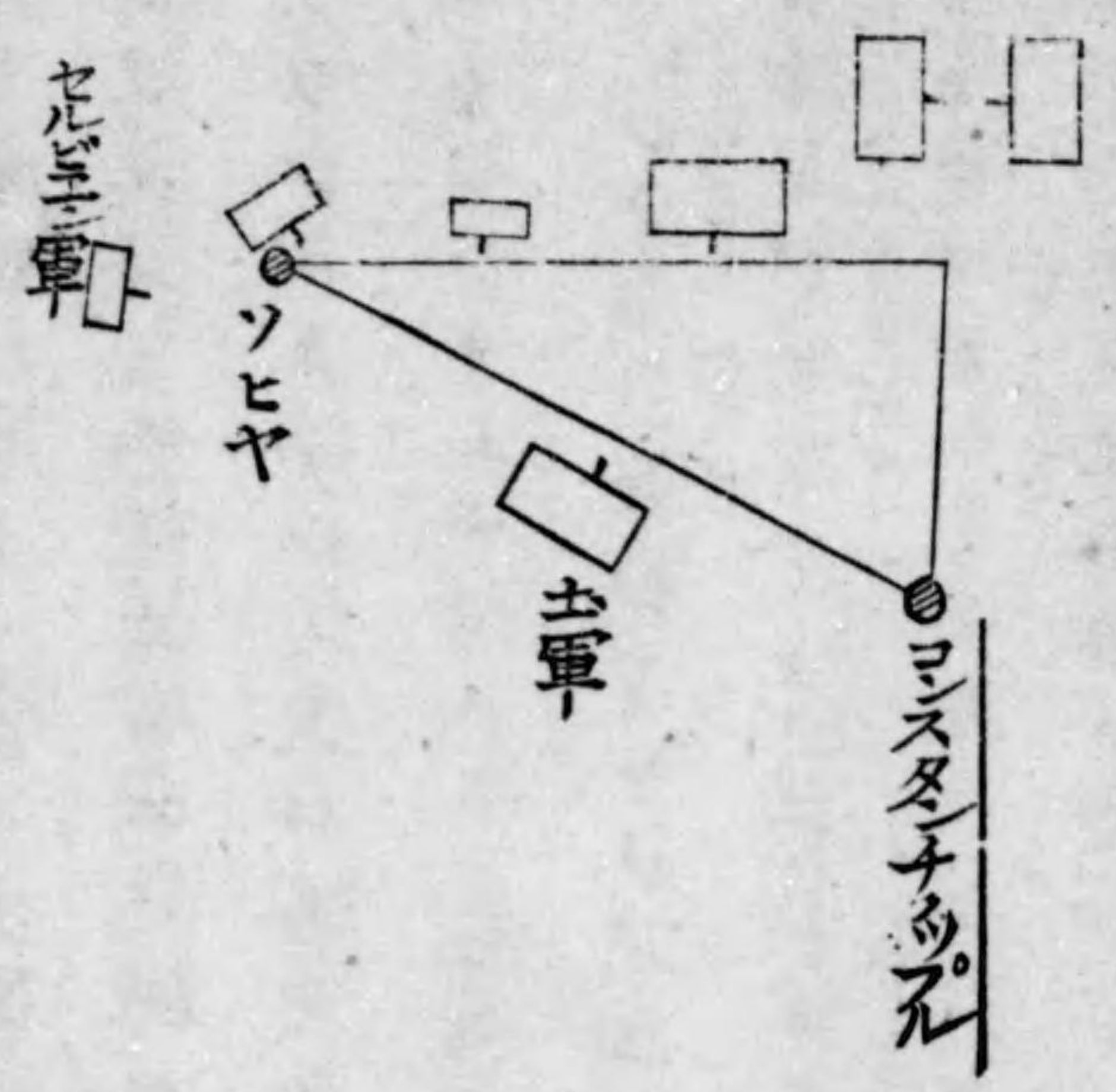
離シ居レリ即チ「シヤキールバシヤ」ノ軍ハ「エトロポールバルカン」ニアリ而シテ其兵力ハ魯軍ニ對スルニ足ラス「シプカ」峠ニ對スル土軍モ亦新ニ増加セシ魯軍ヲ支ユルニ足ラサルノ兵員ナリ又「スレイマンバシヤ」部下ノ軍ハ「ダールパザルザツク」ニ集合中ナリ而シテ此地ハ「エトロポール」及ヒ「シプカ」ノ支隊ヲ援助スル爲メニハ遠シ

實際魯將「グールユ」ノ「エトロポール」「バルカン」ヲ諭エテ進ムニ當リ「シヤキールバシヤ」ノ軍ヲ援助セサリシモノハ其集合未タ成ラス且ツ戰鬥ノ準備完カラサリシニ因ルナリ

準備ヲ要セスノ攻勢移轉ヲ爲スニ便ナルハ唯「コンスタンチノツプル」近傍ニ陣地ヲ占ムル場合ニアルノミ
尚ホ他ニ土軍ノ爲メニ取ルヘキ策ナキニ非ラス即チ其一ハ全土國ノ兵ヲ四角要塞内ニ集合シ魯軍ノ背後ヲ脅威シテ以テ「コンスタンチノツプル」ニ前進ス

ル「ナカラシムル」ニアリ然レモ是レ間接ニ「コンスタンチノツプル」ヲ掩護スルモノニシテ全ク萬一ヲ僥倖スルノ籌策ナリ他ノ一ハ魯軍ノ南進ニ對シ「バルカン」山南方ニ於テ側面陣地ヲ占領スルモノ是ナリ
地圖ニ就テ見レハ「バルカン」南方ニ於テ側面陣地ニ適スルノ地多クアルカ如シ又土軍ハ海ヲ制スルヲ以テ「スレイマンバシヤ」ノ軍ハ海路「コンスタンチノツプル」ニ至ルヲ得ルナリ

如此側面陣地ヲ占領スルモ優勢ナル魯軍ニ對シテ危キナキ能ワス唯魯軍ノ侵入ヲ多少永ク支障シ得ルノミナリシナラン
土軍ノ不幸ヲ來タセシハ「バルカン」山ノ諸点ニ因テ防禦セントセシニアリ而シテ其諸点ニ於テ



モ唯本道ノミヲ守備シ支路ノ如キハ毫モ意ニ介セサリシ故ニ魯軍ハ工兵ヲ以テ其支路ヲ修理シ常ニ迂廻シテ土軍ヲ包撃ス即チ「シヤキールパシヤ」ノ迂廻セラレシカ如シ又次ニ述フルカ如ク同方法ヲ以テ「シプカ」ノ土軍ハ捕虜トナルニ至レリ

「スレイマンパシヤ」ノ率ユル四万ノ軍隊ハ十二月中旬ヨリ運動ヲ起シ「タタールパザルヂック」ニ集合セシモ「バルカン」山防禦ノ爲メニハ一モ効用ヲ呈セサリシ

其運動法左翼軍隊ハ陸路「スリヴ」ヲ經テ「タタールパザルヂック」ニ向ヒ行進ス其他ノ軍隊ハ「ラスグラド」及海路ヲ經テ「コンスタンナノツプル」ニ至リ次テ「タタールパザルヂック」ニ進行ス

土將「シヤキールパシヤ」ハ「エトロポールバルカン」ヨリ辛フン「ペトリシエウチ」ニ退クヲ得タリ

魯將「グールコ」ノ「エトロポールバルカン」ヲ踰ユルヤ魯將「カルツナフ」モ亦タ「トロジヤン」ヲ經テ「カルロウア」ニ前進ス

「グールコ」「エトロポールバルカン」ヲ過クルニ當リ其首カハ先ツ「ソヒヤ」ニ向テ進ム而シテ「シヤキールパシヤ」追撃ノ爲メニハ近衛步兵第三師團ヲシテ「ペトリシエウチ」ニ向ハシム又其師團右側援護ノ爲メ近衛騎兵二旅團ヲ

「チエルケスキューイ」ニ向テ進マシメ以テ敵ノ左側ニ働作セシメントス此第一ノ追撃ハ一月二日ナリ偶降雪甚シク騎兵ハ「チエルケスキューイ」ニ進ム能ハスシテ「ミルコウチ」ニ達セリ

「エトロポールバルカン」ヲ踰ヘテ敵ノ右翼ニ向ヒ進ミシ軍隊モ亦タ積雪ノ爲メ「ペトリシエウチ」ニ達スルヲ得ス

如此景況ナルヲ以テ近衛第三師團ハ「ペトリシエウチ」ノ東北ニ於テ獨立戦ヲ爲スニ至レリ而シテ此師團ノ砲兵中目下使用シ得ヘキモノハ唯一中隊アル

ノミ何トナレハ道路ノ修繕成ラサル間ハ之ヲ「バルカン」ノ北方ニ殘留スルヲ
要セシヲ以テナリ Balkan

「ペトリシエウチ」ノ戦闘ハ頗ル激烈ニシテ魯軍ハ將官二名ヲ失ヘリ然レモ一
Petrichavo
月三日ニ至テ同地ハ魯軍ノ有トナレリ是レ土軍ハ自ラ隨意ニ退却セシヲ以テ
ナリ

四日「メツカ」峠ヲ占領シ五日ニハ「ペトリシエウチ」ノ南方「ポイブレン」ヲ占
Petrichevo
ム而シテ魯軍ハ此兩地ニ前哨ヲ配布ス Poibren

六日土軍十大隊「ナトルーキユイ」ヨリ「メツカ」ニ向テ逆撃シ魯軍ノ前哨ヲ退
Otonkieui
ク然レモ土軍ハ直ニ去リシヲ以テ魯軍前哨ハ再ヒ舊位ニ復セリ Meeka

魯國騎兵十二中隊ハ南方ニ正面シテ「ラコウイツア」ニ近衛歩兵師團ハ「タス
Rakowitza
キツセン」ニ第九軍團ノ歩兵第五師團ハ「ドルニーコマルツア」又第三十一師
Kiessen
團ノ歩兵三大隊ハ「ストラナツア」ニアリ D. Komartza
Statiza

魯將「グールコ」ニ屬シテ「エトロポールバルカン」ニ戦闘セシ第十三師團ノ軍
Gourko
隊ハ其師團長ニ歸屬ス Etropol Balkan

將官「カルツナフ」ハ「カルロウア」ニアリ「グールコ」自カラハ殘余ノ諸兵ヲ統
Kartsof
テ「ソヒヤ」ニアリ以テ砲兵及輜重ノ背後ヨリ「ナルクハニ」及ヒ「アラブコナ
Sophia
ク」附近ニ來着スルヲ待ツ是レ來着後更ニ前進セント欲スルモノナリ Orhanie Arabkonak

一月五日即チ「グールコ」ノ「ソヒヤ」及ヒ「ペトリシエウチ」ヲ略取シ終ル迄ニ
Gourko
魯軍ハ千人ヲ亡ヘリ然レモ其損失ハ困難ノ事業ニ比スレハ甚タ少ナキモノト
Petrichevo
謂フヘシ

魯將「カルツナフ」ハ「カルロウア」ヨリ騎兵ヲ南方「ピリツポポリ」ニ差遣シ又
Kartsof
「ラデツキー」ノ軍ト連絡ノ爲メ左翼ヨリ騎兵ヲ派遣ス Philippopoli
Radetsky

魯土兩軍ハ數月間「シプカ」峠ニ於テ拮抗セリ
「ラデツキー」ノ南進スルハ増援兵ノ來着ヲ待テ爲スヘキナリ而シテ其増援兵
Radetsky

ハ「ブレブナ」陥落ノ後來ル者ナリ然ルニ其頃ハ已ニ大雪トナリシヲ以テ其來
ル遲シ之ニ因リ「ラデツキー」ノ南進モ亦タ遲緩スルニ至レリ
Plevna

魯軍ハ土軍ニ對シ數月來「シブカ」峠ノ首ナル陣地「ニコラス」山ヲ守レリ今ヤ
Radetzky

此陣地ハ悉ク積雪ノ覆フ所トナリ其溫度ハ列氏零點下二十度ニ低下セリ之レ
St. Nicolas

カ爲メ魯軍ノ患者頗ル多ク殊ニ第二十四師團ヲ以テ甚シトナス此師團ハ他者
ヨリ後ニ來リシニモ係ラス十二月二十五日迄ニ六千人以上ノ病死アリ十二月

二十四日ノ如キハ一聯隊中ニテ病死セシ者六百三十人ノ多キニ及ヘリ故ニ此

師團ハ止ヲ得ス後方ニ還ラシムルヲ要セリ依テ之レニ代ユルニ第四軍團ノ第

三十師團ヲ以テス「ラデツキー」ハ左ノ如キ方法ヲ以テ「バルカン」山ヲ踰ユ
Radetzky

第一「ニコラス」山（シブカ峠）ニハ步兵第九師團ノ三大隊及ヒ第十四師團
St. Nicolas

ヲ留メ兩翼軍隊ノ目的地ニ着スル迄陽擊運動ヲ施行ス
Schipka

第二 右縱隊ハ將官「スコベレフ」第二（中將「スコベレフ」）之ヲ率ユ其兵員左
Skobelief II

ノ如シ

步兵二十二大隊（步兵十六師團散兵旅團ノ三大隊）
騎兵七中隊

山砲二十四門

工兵二中隊

此縱隊ハ一月五日ノ夕「ソレンスデルヴナ」ヲ發シ徒歩道ニ因テ峠ヲ
Solensdervo
踰エ「ヘメドリ」ニ至リ此地ヨリ「シブカ」ノ土軍ヲ脅威スルヲ任トス
Hemedli
其行進里程約二十吉米ナリ
Schipka

第三 左縱隊ハ將官「スワイプトポルクミルスキー」之ヲ指揮ス其兵員左ノ
如シ
Sviatopolk *Mirsky*

步兵十四大隊（步兵第九師團ノ九大隊散兵第四旅團）
騎兵六中隊
ノ四大隊「ビュルガリ」步兵一大隊

山砲兵一中隊野砲兵二中隊

工兵一中隊

此縱隊ハ五日午前ニ「トラヴナ」ヲ發シ「シリカ」ヲ經テ「グソヴァ」ニ至リ敵ノ右側背後ヨリ攻撃スルヲ任トス其行進里程「グソヴァ」迄約四十六吉米ナリ

第四 歩兵第三十師團(第二十四師團ノ代)ハ左縱隊ニ隨行ス

各縱隊ノ砲ハ總テ橈ヲ以テ堆雪上ヲ運搬セリ

左縱隊司令官「ミルスキー」ハ「ビュルガリー」人民二千人ト工兵隊トヲ以テ道路ヲ作ラシム然レモ砲兵ハ三中隊中唯一中隊ヲ携行スルヲ得シノミ

五日夕ニ於テ前衛ハ「シリカ」ニ六日ニハ山脉ト「ダソヴァ」ノ間ニ達シ七日ニハ「グソヴァ」西方出口ニ於テ閉進スルヲ得タリ

第三十師團ノ一旅團ハ騎兵若干ト共ニ側面掩護ノ爲メ「マグリリス」ニ差遣セラ

ル

一月八日「ケザンリツク」ニ轉進ス

將官「ミルスキー」ハ首カヲ以テ「シヤニナ」ニ進ミ同處及ヒ「ハスキューイ」ヲ

略取ス次テ歩兵十三大隊ヲ南方ヨリ「シプカ」ノ土軍背面ニ對シテ展開セシム

土軍之ヲ逆撃ス然レモ「ミルスキー」撃テ之ヲ退ク

「ケザンリツク」ニハ敵兵ナキヲ知ル依テ「ミルスキー」ハ將官「スコベレフ」ノ

西方ヨリ來リ合スルヲ待ツ

將官「スコベレフ」ノ前衛ハ「シプカ」西方ノ峠ヲ踰ユ之レカ爲メ屢々十度以上

ノ傾斜アル徒歩道ヲ登ルヲ要ス即チ工兵隊ノ援助ヲ以テ七日夕「ヘメドリ」ニ

達スルヲ得此地ニ於テ土軍ノ歩兵ニ遭遇ス然レモ之ヲ撃退シ其夜此地ヲ略取

スルヲ得タリ魯軍百五十人ヲ亡フ

「スコベレフ」ハ後尾軍隊ノ到着スル迄其運動ヲ駐止セリ故ニ九日ニ非サレハ

真ノ「シプカ」攻撃ニ參與スルヲ得ス同氏ハ八日ニ於テ「ミルスキー」ノ戦闘セ
シヲ知ラサルニ非ラス然レモ其兵力未タ悉ク集合セサルヲ以テナリ
當時來着セシ騎兵第一師團ノ三聯隊ハ將官「スコベレフ」ノ令下ニ属ス同氏ハ
此他尚ホ歩兵十六大隊騎兵七中隊山砲六門ヲ得タリ野砲ハ總テ山上ニ殘留セ
サルヲ得ス

九日「スコベレフ」ハ部下ヲ率ヒテ「セノヴス」ニ向ヒ前進ス

此間「シプカ」ノ土軍ハ其背後ニ於テ左右ニ對シ野堡ヲ築ケリ

「ラデツキー」ハ此間峠上ニ於テ激烈ノ砲撃ヲ爲セリ

九日晝ニ於テ「ミルスキー」ハ「シプカ」村落ヲ占領シ先ツ之レニ防禦ノ作業ヲ
爲セリ

午后二時ニ至リ「スコベレフ」ハ「セノヴス」ヲ占ム

茲ニ於テ魯將「ミルスキー」ト「スコベレフ」ニ因テ挾撃セラレタル土軍司令官

「ウエイセルパシヤ」ハ一万二千人ノ兵力ヲ有シナカラ武器ヲ投シテ降ラサル
可ラサルニ至レリ此土軍ハ先キニ戰鬥中砲十二門ヲ失ヒ今復タ十五門ヲ掠奪
セラル

此戰鬥間「ラデツキー」ハ第十四師團ノ一旅團ヲ「ニコラス」山ニ集合シ正午ヨ

リ攻撃ヲ始メ激戰二時半ノ後此旅團ハ將校ノ半員ト下士卒千七百人ヲ亡ヘリ

然レモ之レカ爲メ土軍歩兵二十二大隊ト多クノ砲ヲ獲且ツ「ミルスキー」及ヒ

「スコベレフ」ノ攻撃ヲ容易ナラシメタリ

此日土軍ノ囚虜トナリタルモノハ總計三万二千人及砲百三門トス

魯軍ハ如此非常ノ勝利ヲ得シモ之レカ爲メ六千人ヲ失ヘリ

此「シプカ」戰鬥ノ間第十一軍團ハ東方ニ於テ東ニ面シ陽撃ヲ爲セリ即チ「ス

タタリツア」及ヒ其南北ヨリス

「シプカ」峠ハ己ニ魯軍ノ有トナレリ而シテ土軍ハ兵ヲ「タタールパザルチツク」

一月十二日
以後ニ於ケ
ル魯軍ノ運
動
一般圖参照

ニ送リシヲ以テ「コンスタンチノツブル」ニ至ルノ道路ニハ魯軍ノ爲メノ關門
 ナキニ至レリ茲ニ於テ「プレブナ」陥落後ニ於ケル魯軍ノ第一目的即チ「バル
 カン」山通過ハ全ク果スヲ得タリ
 一月十二日魯軍總督皇太子「ニコラス」親王ハ「ケザンリツク」ニ達ス此ニ於テ
 今迄守勢ニアリシ魯軍ハ一般ノ攻勢ヲ取テ前進ス
 魯將「ツンメルマンヌ」ノ率ユル第十四軍團ハ初メ「ブライラ」及「ガラツ」ニ於
 テ「ダニユーブ」川ヲ渡リ「コンスタンツア」ニ進ミ以テ四角要塞ノ土軍ニ對シ守
 勢ヲ取レリ今ヤ此軍隊ハ「ワルナ」ニ向テ前進ス
 又「ローム」河孟ニ在テ四角要塞ノ土軍ニ對スル魯國皇太子ノ軍ハ「ルーナユ
 ツク」及「シユムラ」ニ向テ前進ス豫察ニ因レハ此ニ要塞ハ攻圍ヲ施スカ或ハ
 長圍スルヲ要スルモノナリ
 第八軍團ノ騎兵第八師團ハ是ヨリ先キ皇太子ノ軍ニ屬セリ然レモ今ヤ將官

「ラデツキー」ハ「バルカン」山ヲ越エテ南進スルヲ以テ其騎兵師團ハ歸屬スル
 ヲ要スルニ至レリ
 Balkan
 Radetzky

「オスマンバザール」ノ土軍ニ對シテ監視セシ魯國第十一軍團ハ「スリヴノ」ヲ
 經テ「ヤンボリ」ニ進ミ同所及ヒ鐵道ヲ占領シ尚ホ「カルナバド」ヲ占メ以テ北
 方「バルカン」山ノ諸峠ヲ掩護ス此軍團ハ一ノ大別働隊ヲ黑海々岸「ビユルガ
 ス」ニ差遣スルノ任ヲ有ス
 Balkan
 Burgas
 Osmanbazar
 Slivno
 Yamboli
 Karnabad

魯國第四第八軍團ハ擲彈師團ト共ニ「アドリアンノツブル」ニ向テ前進ス
 「カルツナフ」ハ「カルロウア」ヨリ「ヒリツホボリ」ニ向フ
 「グールユ」ハ此間「タタールバザル」ヲツク「ニ向テ運動ス之レカ爲メニハ第二
 ノ山脉ヲ踰エサル可ラス
 Adrianople
 Philippopoli
 Tatar
 Pazardjik
 Gouko

千八百七十七年

魯土戰史筆記第十三回

明治二十一年六月一日

歐羅巴土耳其ニ於ケル戰鬥ハ今將ニ其局ヲ結ハントス前述スル如ク魯將「グ

ールコ」及ヒ「ラデツキー」ハ己ニ「バルカン」山ヲ踰越セリ

Gonrko

Radetsky

Balkan

山ヲ踰越セリ

戰爭ノ當初ヲ回顧スレハ土軍ハ政略上ヨリ常ニ守勢ヲ保テ魯軍ハ專ラ攻勢ヲ取レリ

土軍守勢ヲ取ルニ當テハ堅固ニシテ他ニ比類ヲ見サル所ノ補助物ヲ有ス何ソ

ヤ即チ天然ノ障礙是ナリ

之レニ反シ魯軍ハ攻撃ヲ爲スニ當テ非常ノ困難ヲ排除セサル可ラス即チ地圖

ニ就テ見ルモ魯國西南部ナル戰場ノ方向ニハ其交通最モ不便ナルヲ知り得ヘ

シ

土軍ノ以テ補助トナスヘキ天然障礙ノ第一ハ「ダニユーブ」川ニシテ土軍ノ直

Danube

接正面ニアリ其河幅ノ廣大ナル水底ノ深キ流水ノ疾キ河岸ノ攀登ニ困難ナル

カ如キハ世界殆ント其類ナシ而シテ渡河シ得ヘキ諸点ニハ土軍隊メ要塞ヲ築設セリ加フルニ土軍ハ多クノ鋼鐵艦ヲ以テ編組スル艦隊ヲ有セリ魯軍ハ此堅固ナル障碍物ニ向テ渡河ヲ強行セサルヲ得ス

土軍ノ頼ムヘキ第二ノ天然障碍物ハ「バルカン」山脉トス此山脉ニ於テモ踰越シ得ヘキ諸点ニハ土軍防禦ノ工作ヲ爲セリ

然レモ魯軍ハ此困難ナル「ダニユーブ」ノ渡河及ヒ「バルカン」ノ踰山ヲ遂ニ強行スルニ至レリ實ニ是等ノ事跡ハ宜シク研究シテ軍人ノ腦裏ニ鑄銘スヘキナリ

抑モ如何ナル天然ノ障碍物ト雖モ終始守勢ノミヲ保ツテ之ヲ死用スル時ハ決シテ其力ヲ頼ムニ足ラサルナリ障碍物ハ固ト補助物ナリ之ヲ利用シテ始メテ其價值ヲ生ス故ニ巧ニ之ヲ活用シテ攻勢移轉ヲ圖ルニ非ンハ馬ンソ能ク補助ノ用ヲ爲サンヤ

魯軍一般ノ前進運動

人アリ曰ク國土ノ交通不便ナルハ敵ノ行進ヲ障碍スルヲ以テ守勢ニ適スト是等ハ實ニ甚シキ誤見ト云フヘシ内地交通ノ不便ハ敵ノ爲メニ非ラスシテ守者ノ運命ヲ危フスルノ他ニ効用アラサルナリ夫レ魯土ノ戰爭ノミナラス何レノ戰史ヲ閱ミスルモ天然ノ補助物ノミヲ頼テ以テ防禦ノ功ヲ奏セシモノアラサルナリ必スヤ有力ノ軍隊ヲ以テ巧ニ之ヲ活用セサル可ラサルナリ

前回述ヘシカ如ク魯將「ラデツキー」ハ土軍ノ守備セシ「バルカン」山ヲ踰ヘ以テ「プレブナ」陥落後ニ於ケル魯軍大本營ノ第一目的ヲ果セリ魯軍ノ大部分ハ己ニ「バルカン」南方ニ來着ス其總督皇太子「ニコラス」親皇モ亦「ケザン」ニ來リ魯軍一般ニ攻撃運動ヲ爲スヘキノ命令ヲ發ス

是レヨリ先キ魯將「チンメルマンヌ」氏ハ「ガラツツ」及ヒ「ブライラ」ニ於テ「ダニユーブ」河ヲ渡リ「ドブルチヤ」ニ在リ四角要塞ノ土軍ニ對シ魯軍背後ノ連絡ヲ掩護セリ今ヤ攻進スヘキノ命ヲ受ケ「ワルナ」ニ向ヒ前進ス

「シヤントラ」河孟ニ在テ「ルーチユック」及ヒ「シユームラ」ニ對シ監視セシ魯國皇太子ノ軍ハ南ニ向テ前進ヲ始ム

又皇太子ノ軍ト「ラデツキー」ノ軍隊ノ中間ニ在テ連絡ヲ保持セシ第十一軍團ハ東ニ向ヒ「シユームラ」ヨリ「コンスタンチノツプル」ニ通スル道路ニ進行ス

此軍團ハ一支隊ヲ海岸「ビユルガス」ニ差遣ス

將官「ラデツキー」ハ已ニ「シプカ」峠ヲ踰エ今ヤ「アンドリノツプル」ニ向ヒ前進ス其軍隊左ノ如シ

第四、第八軍團

騎兵師團

第三、第四狙撃旅團

擲彈軍團

將官「カルツナフ」ハ第三師團ヲ率ヒ「ラデツキー」及ヒ「グルルコ」兩將ノ中間

ニ在テ「トロジヤン」峠ヲ經テ已ニ「カルロウア」ニ達セリ今ヤ南方「ヒリツボ

ポリ」ニ向テ前進ス

已ニ「エトロポール」ヲ經テ「ソヒヤ」ニ達セシ將官「グルルコ」ノ軍隊ハ「タタ

ールバザルナツク」ニ向ヒ行進ス

是ヨリ先キ土將「スレイマンパシヤ」ハ四角要塞ヨリ四乃至五万ノ兵ヲ「タタ

ールバザルナツク」ニ集合セントセリ其處置ノ當否ハ已ニ述ヘシカ如シ而シテ

此處置ハ實ニ半途ノモノト謂フヘシ何トナレハ「バルカン」山ノ諸峠ヲ悉ク守

備セシモ其兵力ハ皆ナ魯軍ニ對スルニ足ラサリシヲ以テ一モ其防禦功ヲ奏シ

タルモノナシ

魯將「グルルコ」ノ前進運動

魯將「グルルコ」ハ「ソヒヤ」ヨリ「タタールバザルナツク」ニ進ムニ當リ更ニ一大峠ヲ踰エサル可ラス即「イチマン」附近ノ山脈是ナリ「トラジヤンストール」

「ストール」ハ獨語ト稱ス嘗テ千六七百年前羅馬法王此地ヲ過キ此名ヲ附與セシ

モノナリト云フ

將官「グルルコ」以爲ラク土將「スレイマンパシヤ」ハ首カヲ以テ「トラジヤン

Gourko

Suleiman Pacha

Fajansthor

ストール」ヲ守備シ我前進ヲ妨害スルナラン依テ之ヲ躰ユルハ自ラ「エトロポ

Gourko

Etropol

ール」ヲ躰エシ策ト「ラテツキー」ガ「シブカ」峠ヲ躰エシ方法ヲ用ユルヲ要ス

Radetzky

Schipka

蓋シ此方法タル首カヲ土軍ノ正面ニ對セシメ支隊ヲ以テ側面ヨリ土軍ノ背後

ヲ切斷スルニアリ今ヤ魯軍ハ已ニ優勢ナリ故ニ此企謀ハ或ハ好結果ヲ得シナ

ラン已ニ述ヘシカ如ク魯將「ラデツキー」ハ此方法ヲ以テ土軍ヲ捕虜トナスノ

Radetzky

好結果ヲ得タリ又「エトロポール」ニ於テハ土將「シヤキールパシヤ」ハ迂廻セ

Etropol

Chakir Pacha

ラル、前其軍隊ヲ率ヒテ遁走セシヲ以テ魯軍ハ「シブカ」ニ於ルカ如キ大功ヲ

Schipka

奏スル能ワサリシモ亦此方法ヲ以テ勝利ヲ得シナリ

第五号圖（「ヒリツボリ」及「ソビヤ」間ノ圖）及ヒ第六号圖（「アソドリノツプル」及「ソビヤ」間ノ略圖）參觀

魯軍「グルルコ」ハ前方ノ峠ヲ躰エンカ爲メ左ノ部署ヲ爲セリ

Gourko

歩兵八大隊

騎兵八中隊

砲兵二中隊

以上ハ「ソビヤ」ニ留守セシム是レ「セルビ」軍ハ尚ホ西方ニ於テ土軍ト戰鬥シ

Sophia

Serbie

アレハナリ

歩兵八大隊

騎兵十二中隊

砲十四門

以上ハ一月六日「サマコウチ」ニ差遣ス此支隊ハ「ソビヤ」ヨリ「ラドミル」ヲ經

Samakowo

Sophia

Radomir

テ退却スル土軍ヲシテ「タタール」バザルナツク」ニ合スル能ハサラシムルヲ任

Tatar Pazardjik

トス又此支隊ハ「サマコウチ」ヨリ「バニア」ヲ經テ「タタール」バザルナツク」ニ

Samakowo

Bania

Tatar Pazardjik

進ムヘキモノナリ

「グールユ」ハ自ラ首カヲ將ヒ本道ヨリ「トラジャンストール」ヲ經テ前進ス其
Gourko Trajansthor
兵力左ノ如シ

歩兵三十大隊

騎兵十二中隊

砲六十八門

此隊ハ一月十二日「ウアカレル」ヨリ「イナマシ」ヲ經テ前進ス「ウアカレル」ハ
Vakarel Ichiman
峠ノ西入口ニアリ

又「トラジャンストール」ニ向テハ別ニ「ペトリシエウチ」ヨリ「トボルニツア」
Trajansthor Petritschevo Topolnitza
河ニ沿フテ一支隊ヲ進マシム其兵員左ノ如シ

歩兵六大隊

砲 八門

其他一ノ大ナル縦隊ハ一月十二日「ナトルーキユーイ」ヨリ直ニ「タタール」
Otkoukieu Tatar

「パサルナツク」ニ前進ス此道路ニハ第二ノ峠アリ此縦隊ノ爲メニ成功ヲ望ミ
Pazardjik
シ所ノモノハ土軍ハ多分「トラジャンストール」ヲ守備スヘキヲ以テ背後ヨリ
Trajansthor
之ヲ攻襲スルニアリ其兵員左ノ如シ

歩兵二十四大隊

騎兵二十四中隊

砲五十八門

然ルニ魯軍ハ其最右翼ニ於テ土軍ノ首ナル抵抗ヲ受ケシ而已ナリシ

魯軍ノ右縦隊ハ「ラトミル」ヨリ「サマコウチ」ヲ經テ「タタール」バザルチツク」
Radomir Somakowo Tatar Pazardjik
ニ退却スル土軍ニ出會セリ此土軍ハ戰鬥ト談判トヲ以テ魯軍右縦隊ノ前進ヲ

一月八日ヨリ十日マテ阻滯セリ十一日ニ至リ此土軍ハ魯軍ヲ避ケテ退却ス依
テ魯軍ノ右縦隊ハ直ニ前進シ十一日ニ「サマコウチ」ニ達シ十二日「バニア」ニ

十三日「シムシナ」ニ進ミシモ終ニ土軍ニ追及スルヲ得ス
Simcina Samakowo Bania

此間魯軍首カハ土軍ニ出會スルコナク「トラジヤンストール」ヲ過ク而シテ其前方ニ派遣セシ騎兵ハ我右縱隊ヲ避ケテ退却スル所ノ土軍ニ遭遇セリ依テ之ヲ虜繋セントセシモ成ラス唯僅ニ輜重車一輛ヲ獲シノミ

中央ニ於テ將官「グールコ」ハ一月十三日「エセツカシ」ト「ハザリ」ノ間ニ展開ス（兩地ハ「タタールツザルチツク」ノ西方及ヒ西南方ニアリ）

魯軍左縱隊モ亦タ土軍ト小戦ヲ爲セシノミニシテ十三日夕其先頭ハ「ドニス

ベグリイ」及ヒ「アブヂユラレ」ニ達ス此時本隊ハ「ナトルキユーイ」ニ又砲兵 Beglii Abudulare Ottonkieni

ハ「ペトリシエウチ」ニ乘者セリ Petrichevo

十四日「グールコ」ハ西、北及東ヨリ「タタールバザルチツク」ニ前進ス土軍ハ復タ此地ヲ棄テ「マリツア」河ノ南ヲ過キ徹夜「ヒリツポポリ」ニ退却ス土將

「スレイマンパシヤ」ノ如此速ニ此地ヲ去リシ所以ハ魯將「カルツチフ」ノ率ユル第三師團「カルロウア」ヨリ直チニ「ヒリツポポリ」ニ前進シ土軍ノ退却路ヲ

Trajansthor
Gouko
Eseklesi
Hadzili
Denis
Maritza
Philippopoli
Karlsof
Philippopoli
Karlova
Philippopoli

魯軍「ヒリツポポリ」前ノ展開及ヒ其攻撃續

切斷セントセシニ因ルナリ

土將「スレイマンパシヤ」ハ「ヒリツポポリ」ニ於テ四万三千人ヲ集合スルヲ得タリ *Suleiman pacha* *Philippopoli*

十四日魯軍ハ土軍ヲ追躡シテ「ヒリツポポリ」ニ前進シ其夕該市街ノ前方ニ展開ス此ニ於テ最後ノ大戦ニ及ハントス實ニ此戦闘ハ魯土兩軍最後ノ戦闘ナリ *Philippopoli*

「ヒリツポポリ」ニ於テ「スレイマンパシヤ」ノ率ユルモノ、外全國己ニ土軍ナキナリ *Philippopoli* *Suleiman Pacha*

一月十四日ノ夕魯軍「ヒリツポポリ」前方ニ於ケル配布左ノ如シ *Philippopoli*

甲 右縱隊

司令官 將官「シュウアラフ」 *Schouvalof*

第一、歩兵八大隊、騎兵二中隊、砲四門ハ「マリツア」河ヲ渡リ「アダキユーイ」ニ於テ河ノ西南ニ陣地ヲ占ム *Maritza* *Adakieni*

第二、歩兵十二大隊、砲三十六門ハ「マリツア」河ノ左岸「ハン」ノ南ニ陣ス
Maritza Han

第三、歩兵十二大隊、砲二十八門ハ「コナレ」ニ駐止ス
Konare

乙 左縱隊

司令官 將官「クリユドチル」
Krudener

第一、歩兵八大隊、騎兵四中隊、砲三十六門ハ「ナヤラビヤ」ニ陣
Tchalapitza

第二 歩兵六大隊、砲二十二門ハ「ナヤラビヤ」ノ右翼後ニアリ
Tchalapitza

丙 騎兵師團ハ尚ホ左方ニアリテ「サリツア」及「コスレキユーイ」ヲ占ム此
地ヨリ騎兵六中隊ヲ「アリデルマン」ニマテ先行セシム
Saritza Koslekiuni

丁 右諸軍隊ノ背後ニ將官「グールコ」在リ
Ali Dermen Gourko
又歩兵五大隊、砲五門ハ將官「シルデルシユールドチル」ノ指揮ニ属シ
Schilder Schouldner

テ同シク背后ニアリ

其他歩兵八大隊、騎兵七中隊、砲十二門ハ將官「ウエリアミノフ」ノ指揮
Veliaminof

ニ属シ「タタールバザルナツク」ニ在リ
Tatar Pazardjik

以上諸隊ノ配布ハ攻撃計畫ニ關係アルヲ以テ故ラニ此處ニ掲ケシナリ一月十
五日ニ於ケル攻撃ハ左ノ如ク施行セントス

一、騎兵ハ「マリツア」河ヲ渡リ「ヒリツボ」ボリ「市街」ノ方向ニ前進ス
Maritza Philippopoli

二、將官「クリユドチル」ハ首カヲ以テ「マリツア」河ノ左岸ヨリ「ヒリツボ」
Krudener Maritza
ボリ」ニ前進ス

三、將官「シルデルシユールドチル」ハ「クリユドチル」ニ續進シテ豫備ト
Schilder—Schouldner Krudener
ナル

四、將官「シユウアラロフ」ハ「マリツア」河ノ右岸ニ浴フテ「カデキユーイ」
Schouvalof Maritza
ニ向テ前進ス
Kadikiuni

一月十五日
ニ於ケル
「ヒリツポ
ボリ」附近
ノ戦鬪

五、將官「ウエリアミノフ」ハ「ダタールバザルナツク」ヨリ將官「シュウウ
 Velaminof Tatar Pazardjik Schouvalof
 アロフ」ノ右側ニ並行シ「デルマン」ニ向テ進ム
 Dermen

六、司令將官「グールコ」ハ「アイランリ」ノ北方「マリツア」河ノ北ニ至ル
 Gourko Airanli Maritza
 十五日魯將「クリユドチル」ハ「ヒリツポボリ」市街ノ一部即チ「マリツア」河ノ
 Krudner Philippopol Maritza
 北ニアル部分ヲ容易ニ畧取スルヲ得タリ土軍ハ此部分ヲ退キ「マリツア」河ノ
 Maritza
 橋梁ヲ破壊セリ

魯軍ノ左翼ヨリ前進セシ騎兵師團ハ「マリツア」河ノ北方ニアル土軍ヲ河岸マ
 Maritza
 テ壓縮セリ

將官「シュウウアロフ」ハ「カヂキユーイ」及ヒ「カラテイル」ニ向テ前進ス此兩
 Schouvalof Krutkieui Karatair
 地ハ「マリツア」河ニ朝スル支流（スタレルジエカ）ノ右岸ニアリ
 Maritza Starajeka
 此地ニ在テハ午后四時ニ至ルマテ土軍ト射撃戦鬪ヲ行ヒ續テ魯軍ハ河ヲ渡リ
 Karatair
 甚シキ困難ナク「カラテイル」ヲ畧取スルヲ得タリ

將官「グールコ」ハ作戰ノ經過ニ因リ其攻撃ヲ易カラシメンカ爲メ歩兵四大隊
 Gourko
 砲兵二中隊ヲ「アイランリ」ヨリ「カヂキユーイ」ニ向テ展開セシム
 Airanli Kadikieui
 茲ニ於テ土軍ハ此地方ニ於テモ亦退却セサルヲ得ス

將官「ウエリアミノフ」ノ率ユル軍隊ハ土軍ニ出會スルヲナク「デルマン」ニ達
 Velaminof Dermen
 スルヲ得タリ

註 今ヤ一月中旬酷寒ノ候ナリ故ニ徒涉シ得ル河川ト雖モ軍隊ノ爲メニ危
 害ヲ醸ス恐レアルヲ以テ徒涉ヲ行フヲ得ス茲ニ於テ魯軍ハ最モ奇ナル
 一手段ニ因テ渡川ヲ施行セリ即チ騎兵ノ馬匹ヲ歩兵ニ貸與シテ河ヲ騎
 過セシメタリ

魯軍ハ此日「ヒリツポボリ」ノ攻撃ヲ結了スル能ハス依テ其夕將官「シュウウア
 Philippopol Schouvalof
 ロフ」及ヒ「ウエリアミノフ」ノ兩軍歩兵二十三大隊ハ「アダキユーイカラテイ
 Velaminof Adakieui Karatair
 ル」及ヒ「デルマン」ニ駐止ス其右側掩護ノ爲メニハ騎兵ヲ右翼前ニ差遣セリ
 Dermen

將官「シルデルシュールド子ル」ハ此夕歩兵十大隊、騎兵若干ヲ率ヒ「マリツ
 Schilder-Schouldner
 ア」河ノ右岸「アイランリ」ニ陣地ヲ占ム
 Airanli
 其他將官「クリユド子ル」ハ「マリツア」河北方ニアル歩兵二十四大隊ヲ將テ
 Krudner
 「ポリツボポリ」ノ北部及ヒ其近傍ニ陣ス
 Maritza
 Philippopoli
 又「マリツア」河岸ニ浴テ騎兵師團布陣ス
 Maritza
 十五日ヨリ十六日ニ至ルノ夜騎兵若干中隊ハ「アイランリ」ヨリ河岸ニ浴フ
 Airanli
 テ前進シ「ポリツボポリ」ニ向テ偵察ス此偵察ニ因テ已ニ市街ノ南部ニモ亦土
 Philippopoli
 軍在ラサルヲ知ル
 十六日將官「クリユド子ル」ハ河ヲ渡テ「ポリツボポリ」市街ヲ全ク侵略ス此渡
 Krudner
 河ヲ爲スヤ軍隊ノ一部ハ急造筏ヲ用ヒ一部ハ騎兵ノ馬匹ニ因テス
 Philippopoli
 將官「グルルコ」ハ十六日午前十時報告ヲ得テ土軍ハ已ニ南方「スタニマカ」近
 Gourko
 傍ノ山間ニ退キシヲ知ル
 Stanimaka

土將「スレ
 イマンバシ
 ヤ」ノ退却
 及ヒ魯土戰
 争ノ結末

土將「スレイマンバシヤ」ハ歩兵八十乃至百大隊及砲百四門ヲ有ス然レモ其兵
 Suleiman Pacha
 員ハ已ニ隊數ニ比シテ微弱ナリ即チ四万四千人ニ足ラス
 「ポリツボポリ」ノ南方ニハ最モ困難ナル一大山脉アリ「デスポトダグ」ト稱
 Philippopoli
 ス此山脉ハ「バルカン」山ノ如ク高カラスト雖モ交通困難ナル不毛ノ土地ナリ
 Balkan
 恰モ日本神戸東北ノ山ノ如シ
 土將「スレイマンバシヤ」ハ實ニ此山脉ノ北ノ斜面ニ占陣セリ即チ「スタニマ
 Suleiman Pacha
 カ」ヨリ「カラテイル」ニ通スル道路ニ浴フテ「カラガク」「ベラスナカ」「マル
 Karatair
 ヲア」及ヒ「デルマシデン」ノ諸点ヲ占ム故ニ此陣地ハ直接ニ山脉ヲ背ニスル
 Dermendere
 モノニシテ最モ退却ニ困難ナルノ地ナリ
 魯軍ハ此日進シテ土軍陣地ノ前方ニ占陣ス
 將官「クリユド子ル」ハ「パサマハレ」ニ陣ス
 Krudner
 又騎兵師團ハ「パパスリ」ヲ經テ前進シ土軍ト「アンドリノツブル」トノ連絡ヲ
 Papasli
 Andrinople

パシヤ」ノ退却スルニ及ンテ一モ守備兵ナキニ至レリ故ニ「コンスタンチノツ
Pacha
ブル」ニ通スルノ道路ハ已ニ魯軍ニ向テ全ク開放セシモノナリ
魯將「グールコ」「カルツナフ」及ヒ「ラデツキー」ノ三軍ハ已ニ「アンドリノ
Gourko Kartsof Radetzky Andrinople
ツプル」ニ會合セリ

此大ナル魯國兵團ニ對シ半島及ヒ「コンスタンチノブル」ヲ守備スヘキノ地
形ナキニ非ラス然レトモ其兵力已ニ盡滅セシヲ以テ復如何トモスル能ハス
故ニ「コンスタンチノツプル」ノ前方ニ於テハ一モ戦闘ナク土廷ハ休戦ヲ乞
フニ至レリ
Constantinople

茲ニ於テ魯土戦闘全ク局ヲ結ヘリ

魯國皇太子及ヒ將官「ケンメルマンヌ」ノ兩軍四角要塞ニ向テ爲セシ運動ハ
Zimmermann
更ニ述フル所アラントス此地方ニ於テモ土軍ハ又全ク敗亡セリ
亞細亞土耳其ニ於テ爲セシ戦闘ノ如キハ地圖ナキヲ以テ局部ニ涉リ研究スル

ヲ得ス大体ニ就テ評スレハ此地方ニ對シテモ魯軍ハ最初過少ノ兵力ヲ以テ侵
入ヲ試ミシカ爲メ殆ント不利ノ情況ニ陥レリ然レトモ後々魯國內地ヨリ増援
兵來着スルニ及ンテ其勢ヲ挽回シ得タリ

歐羅巴土耳其ニ於テ土將「ナスマンパシヤ」ノ高名ヲ轟カセシト均シク亞細亞
Osman Pacha
土耳其ニ於テハ土將「ムークタルパシヤ」ノ名尤モ著シカリシ
Moukhtar Pacha

諸國講義ノ
補遺並ニ魯
軍結末働作
ノ批評

千八百七十七年 魯土戰史筆記第十四回 明治二十一年六月十五日

歐羅巴土耳其ニ於ケル魯土戰爭ハ「ヒリツポポリ」ノ戰鬪ヲ以テ最後ノモノトス

抑モ此戰鬪ノ起リシハ土將「スレイマンパシヤ」ノ退却路ヲ南方海岸ニ取リシニ因ル

實ニ「ヒリツポポリ」ヨリ南方海岸ニ至ルニハ困難ナル山脉ヲ踰越セサルヲ得

ス之レニ反シテ「アンドリノツプル」ヲ經テ「コンスタンチノツプル」ニ至ルニ

ハ直線ノ大道アリ故ニ「スレイマンパシヤ」ハ魯軍ノ來ラサル前此道路ヲ取テ

退却セサル可ラス而シテ「ヒリツポポリ」ニ於テ交戦ヲ爲サレハ魯軍ニ先タ

ナテ此方向ニ退却スルヲ得シナリ然レモ魯軍「シブカ」岬ヲ占領シ且ツ此地ニ

アリシ土軍ヲ囚虜ト爲スノ後ナニ至テハ已ニ此運動ハ「スレイマンパシヤ」ノ

爲メニ不利トナレリ

土將「スレイマンパシヤ」ノ「ヒリツポポリ」ニ留テ魯軍ト戦ヒシモノハ亦所以
 ナキニ非ス即チ「コンスタンチノツプル」ニ向テ前進スル魯軍ニ對シテ側面陣
 地ヲ占メシナリ然レモ此陣地ノ南方海岸ニ達スルニハ通過困難ナル一大山脉
 アリ故ニ此處置ハ最モ危険ノモノト謂ハサル可ラス
 此處置ノ不可ナリシハ其結果ヲ見テ知ルヲ得ヘシ即チ「スレイマンパシヤ」ハ
 其率ユル軍隊ノ過半ト全砲兵ヲ失ヒ僅ニ二万ノ兵員ヲ以テ「ガリポリ」ニ免カ
 ル、ヲ得タルナリ
 「スレイマンパシヤ」ハ唯一支隊ヲ以テ「スレイマンパシヤ」ヲ

追ハシメシノミニシテ其他ノ疲勞セシ軍隊ニハ四日間ノ休息ヲ與ヘ而後直チ
 ニ「アンドリノツプル」ニ前進スルヲ得タリ
 魯將「ラデツキ」ハ「シプカ」峠ニ於テ數月間土軍ト對峙セシモ遂ニ此峠ヲ占
 領シ且ツ土軍ヲ降シ「アンドリノツプル」ニ向テ行進ス
 「スレイマンパシヤ」ハ「ヒリツポポリ」ニ留テ魯軍ト戦ヒシモノハ亦所以
 ナキニ非ス即チ「コンスタンチノツプル」ニ向テ前進スル魯軍ニ對シテ側面陣
 地ヲ占メシナリ然レモ此陣地ノ南方海岸ニ達スルニハ通過困難ナル一大山脉
 アリ故ニ此處置ハ最モ危険ノモノト謂ハサル可ラス
 此處置ノ不可ナリシハ其結果ヲ見テ知ルヲ得ヘシ即チ「スレイマンパシヤ」ハ
 其率ユル軍隊ノ過半ト全砲兵ヲ失ヒ僅ニ二万ノ兵員ヲ以テ「ガリポリ」ニ免カ
 ル、ヲ得タルナリ
 「スレイマンパシヤ」ハ唯一支隊ヲ以テ「スレイマンパシヤ」ヲ

魯將「カルツチ」ハ「トロジヤン」峠ニ於テ「バルカン」山ヲ踰エ「ゴールコ」
 ト「ラデツキ」兩將ノ中間ヲ行進シ「カルロウア」ヨリ直チニ「ヒリツポポリ」
 ニ前進セシモ已ニ戰鬥ニ與ルヲ要セサリシヲ以テ道ヲ轉シ「チルパン」ヲ經テ
 「アンドリノツプル」ニ向ヒ行進ス其途次ニ於テハ僅ニ土軍ノ殘兵ニ出會セシ
 ノミ

此時ニ當リ住民中純粹ノ土耳其人數万人ハ「コンスタンチノツプル」ニ向テ逃
 走ス作戰地近傍ノ住民ハ世人ノ知ル如ク土耳其人「ビュルガリー」人及ヒ希臘
 人ノ混合ナリ而シテ土耳其人ハ自國ノ軍隊稍氣勢ヲ張ルヲ見レハ常ニ他ノ住
 民ヲ虐待セリ然ルニ今ヤ土軍ハ敗走スルニ至リシヲ以テ土耳其人ハ他ノ住民
 ヨリ復讐セラレンヲ恐レ乃チ此ノ如ク遁逃スルモノナリ此土耳其人ノ逃走ニ
 因リ其伴フ所ノ荷物ハ殆ント諸道路ヲ填塞シ爲メニ大ニ魯軍ノ前進ヲ妨害セ
 リ

然レハ魯將「スコベレフ」ノ率ユル前兵ハ遂ニ一月二十二日「アンドリノツプ
 ル」ニ達スルヲ得タリ又數日ナラスシテ魯將「グールコ」ラデツキー」及「カ
 ルツナフ」三軍ノ大兵團ハ此市街及ヒ其附近ニ集合セリ
 是ヨリ先キ土軍ハ「ビュルガリー」人民ヲ使役シテ此市街附近ニ臨時作業ヲ以
 テ防禦ヲ構成セリ即チ三十五個ノ堡壘及ヒ其他ノ防禦工事トス而シテ土軍ハ
 此地ヲ以テ根據トナサントスルカ故ニ多クノ重砲及ヒ輕砲ヲ備ヘントセリ然
 レハ魯軍ノ此地ニ到達セシ頃ハ未タ其砲備整頓セサリシ
 土將「スレイマンパシヤ」ハ「アンドリノツプ」ヲ守禦セスシテ尚之レヨリ
 西方ニ於テ魯將「グールコ」ノ「エトロポールバルカン」ヨリ進出スルモノニ對
 向セリ故ニ「スレイマンパシヤ」ノ軍隊ト「アンドリノツプ」トノ交通ハ「グ
 ールコ」ノ爲メニ全ク切斷セラル、ニ至レリ之レカ爲メ預メ「アンドリノツプ
 ル」ノ守禦ニ充テシ軍隊ハ魯軍該市街ニ達スルニ當テ該地ニ在ルヲ得サルノ

第七号圖參照

ナラス之ニ赴クヲ得サリシナリ
 魯軍「アントリノツプ」ニ向ヒ前進スルニ當テ此市街ニハ土軍僅ニ八千人
 アリシノミ
 又四角要塞ヨリ徒行シ采リシ軍隊凡ニ万五千人ハ此時「スリヴノ」及「ヤンボ
 リ」兩所ノ附近ニ達セリ
 然レハ土將「スレイマンパシヤ」ノ「ヒリツボボリ」ニ於ケル敗報ヲ得ルヤ以上
 ノ土軍諸將ハ「キルクキリツス」ヲ經テ退却スルニ決セリ
 此退却セシ軍隊ハ「コンスタンチノツプ」ノ西方「チヤタルナヤ」附近ニ延長
 ナル防禦線ヲ設ケ之レニ據テ以テ直接ニ都府ヲ掩護セリ
 以上述フルカ如キ景况ナルヲ以テ魯軍ノ「アンドリノツプ」ニ着セシ比ハ
 己ニ土軍ノ守備スルモノナシ
 一月二十二日魯軍騎兵ハ「アンドリノツプ」ヲ占領ス然ルニ此地ニ通スル鐵
 道

道ハ多ク破壊ヲ施サス且ツ運行材料亦存在セリ故ニ騎兵此地ヲ占ムルヲ得ル
ヤ直チニ瀛車ヲ用ヒテ歩兵ヲ招クヲ得タリ

二十二日魯軍ハ市街ノ南方及東方ニ其占領面ヲ擴張セリ

魯軍騎兵ハ二十五日「ババエスキ」ヲ占ム又二十六日「リュレブールガ」ヲ占メ
且ツ機關車一輛及ヒ諸種ノ車輛二百ヲ獲タリ「アンドリノツプル」ヨリ南方ニ
通スル鐵道ニ於テモ亦タ機關車五輛及ヒ諸種ノ車輛二百ヲ獲此ヲ以テ魯軍ハ
其背後ノ交通ヲ大ニ容易ナラシムルヲ得タリ

「リュレブールガ」ニ於テ魯軍騎兵ハ土軍凡ソ二万五千人「コンスタンチノツ
プル」ニ向ヒ行進スルヲ探知セリ是レ四角要塞「シユムラ」ヨリ招喚セラレシ
モノナリ

二十九日魯軍騎兵中隊ハ「チヨルルー」ニ於テ土軍騎兵百騎ニ遭遇シ之ヲ撃退
ス

魯軍近衛騎兵師團ハ「ロドスト」(マルマラ海岸)ニ差遣セラル又右側ニ於テハ

「マリツア」河岸ニ左側ニ於テハ黑海々岸「ミヂア」ニ各一部ノ騎兵ヲ差遣ス
二十九日魯軍總督皇太子「ニコラス」親王ハ「アンドリノツプル」ニ來リ土軍ト
休戦ノ約ヲ結ヘリ

此休戦ヲ爲スニ附テハ「チヤタルナヤ」防禦戦ノ以西及ヒ「ブーレイル」防禦線
以北ノ地ハ全ク魯軍ニ委任セリ

「ブーレイル」防禦線ノ背後「ガリポリ」半島ニハ土將「スレイマンパシヤ」砲兵
ナキ二万ノ兵員ヲ有ス以テ半島及ヒ緊要ナル「ダルダ子ル」海峡ヲ保守ス

「チヤタルナヤ」ノ防禦線内ニハ「シユームラ」ヨリ來リシ軍隊ヲ合シ約三万人
アリ以テ「コンスタンチノツプル」ヲ掩護ス然レモ其防禦線ハ不完全ニシテ殊
ニ砲備不十分ナリシ

魯軍ハ「アンドリノツプル」ノ南方及ヒ東方二十万人ノ軍隊ヲ有セリ細説ス

レハ歩兵百五十四大隊、騎兵九十八中隊、砲六百門ヲ以テ戰フヲ得ルナリ故ニ
「コンスタンチノツブル」ヲ侵略スル難キニ非サルナリ

Constantinople

魯軍總督ノ休戰ヲセシハ大ナル過失ト云フヘシ即チ其報酬ニハ本條約ヲ締結
スルニ當テ魯國ニ大ナル不利ヲ呈セリ

魯軍總督ノ休戰ヲ許セシハ「コンスタンチノツブル」侵略ノ難キヲ顧慮セシニ
非ス英國ト開戰スルニ至ランヲ恐レ且ツ已ニ魯國ノ希望ハ悉ク達スルヲ得ル

Constantinople

ノ地位ニアリト考定セシナリ

註 是レ有名ナル「サンステファノ」ノ假條約ナリ此地ハ「コンスタンチノ

S. Stephanos

Constantinople

ツブル」ノ西方海岸ニ濱スル一小市街ニシテ兩國全權大使ノ會合セシ
地ナリ

抑モ魯軍ノ「コンスタンチノツブル」ニ侵入セサリシモノハ英國ト戰フヲ厭フ

Constantinople

カ爲ナリ然レモ魯國ニシテ若シ「サンステファノ」ノ假條約ヲ實行セントセハ

S. Stephanos

亦英國ト開戰セサルヲ得サルニ至ラン英國豈ニ之ヲ默視スヘケンヤ故ニ魯國

ノ爲メニ利トナス所ノ者ハ寧ロ「コンスタンチノツブル」ヲ侵略シ然ル後談判

Constantinople

ヲ始ムヘキサリ魯軍ハ英軍ノ來ラサル前已ニ「コンスタンチノツブル」ヲ略取

Constantinople

シ得ルノ位地ニアリ之ヲ畧取スレハ若シ英國ト開戰スルニ至ルモ黑海ノ入口

ヲ扼守スルヲ得黑海々岸ヲ侵襲セラル、ノ恐ナシ

若シ夫レ此場合ニ於テモ尚ホ英國ト戰フヲ欲セサルカ如キ時ハ英國ト談判ノ

起ルニ當テ之ヲ放棄スヘキナリ「コンスタンチノツブル」ハ一時ノ質物トスヘ

Constantinople

シ之ヲ讓レハ代ユルニ他ニ大ナル請求ヲ爲スヲ得ヘク隨テ魯國ハ目的ヲ有利

ニ果スヲ得シナラン然レモ此質物ナカリシカ爲メ魯國ハ本條約ヲ結フニ當リ

損益相償ハサルノ果ヲ結ヘリ

故ニ曰ク魯軍ノ「コンスタンチノツブル」ニ侵入セサリシモノハ軍事上及政略

Constantinople

上共ニ大ナル過失ナリ

魯將「ナン
メルマン
」ノ四角
要塞ニ對ス
ル運動

巴ニ述フルカ如ク魯軍「バルカン」山ヲ踰ルヤ總督ハ守勢ニアリシ諸軍ニ攻勢
運動ヲナスヘキヲ命セリ Balkan

魯將「ナンメルマンヌ」ノ率ユル第十四軍團ハ騎兵第四師團及格薩騎兵師團ヲ
以テ増加セラル Zimmermann

屢々述フルカ如ク「ナンメルマンヌ」氏ハ初メ「ガラツツ」及「ブライラ」ニ於テ
Zimmermann Galatz Braila

「ダニユーブ」河ヲ渡リ「チエルナウチダ」及ヒ「コスタンツア」ノ線ニ進ミ守勢
Danube Tscherna woda Kostantza

ヲ取レリ是レ「バザルナツク」「ワルナ」ト「シリストリ」ノ間ニシテ「ワルナ」
Pazardjik Warna Silistrie

ノ方ニ近シ「ニアル」一万二千ノ土軍ヲ監視シ且ツ之レニ對シテ魯軍背後ノ連
Warna

路ヲ掩護スルモノナリ

實ニ此守勢ハ千八百七十七年ニ始マリ殆ント半年ノ永キヲ經過ス而シテ此間
唯騎兵ヲ以テ「シリストリ」ノ土軍ヲ危懼セシムルヲ事トセリ Silistrie

一月十七日ヨリ同二十日ニ至ル間ニ於テ魯將「ナンメルマンヌ」ハ其軍隊ヲ
Zimmermann

「バザルナツク」ノ東北ニ集合ス
Pazardjik

土軍ハ「バザルナツク」ノ背後ニ退キ其附近ニ二十三個ノ堡壘ヲ築キ防禦ヲ堅
Pazardjik

固ニス土軍ハ之レニ因テ「ワルナ」港ヲ掩護セントスルモノナリ
Warna

「ナンメルマンヌ」氏ハ「バザルナツク」ヲ攻圍セントス依テ二十六日其軍隊ノ
Zimmermann Pazardjik

半部ヲ「バザルナツク」ノ東方ニ集合シ以テ土軍ト「ワルナ」トノ交通ヲ絶タ
Pazardjik Warna

ントセリ

此日土軍ハ「バザルナツク」ヨリ出撃ス魯軍ハ之ヲ擊退セシト雖モ是等ノ爲メ
Pazardjik

此日ノ企望ヲ果タス能ハサリシ

土軍ノ此出撃タルヤ「ワルナ」へ退却スル軍隊ノ運動ヲ掩護シ且ツ之ヲ秘匿セ
Warna

シモノナリ

魯軍ハ二十七日ニ於テ土軍ノ退却セシヲ知ル依テ徐々ニ之ヲ追躡ス而シテ
Warna

「ワルナ」ノ北方ニ於テ再ヒ土軍ニ接ス

土軍ハ「ワルナ」ヨリ「ルーチユク」及ヒ「シユームラ」ニ通スル鐵道ヲ「ブラウ
Warna Routschouk Choumla Prawadi
アビ」附近ニ於テ破壊セリ

此軍隊ハ此處ニ於テ戰ヲ停止ス

是ヨリ先キ魯國皇太子ノ軍モ又四角要塞ニ對シテ監視セリ今前進運動始ムル

ニ當テ第十二軍團ハ「ルーチユツク」ノ攻圍ニ充テ之ヲ此處ニ駐メ第十三軍團

ヲ率ヒ進テ一月二十六日「ラスグラド」ヲ包圍シ二十七日「ナスマンバザール」

ヲ占メ二十九日「エスキチユーマ」ヲ略シ此地ニ防禦工事ヲ施シ「シユームラ」

ニ向テ前哨ヲ配布ス
Eski-Djoma Choumla

皇太子ノ軍ハ此景況ヲ以テ休戰スルニ至レリ

「ルーマニ」軍ハ休戰ヲ爲スニ當リ「ウイヂン」ヲ圍メリ
Roumanie Widin

又「セルビ」軍ハ「ニツシユ」ノ要塞ヲ略取シ且ツ二三ノ有利ナル戰鬥ヲ爲シ以

テ此地方ニアリシ土軍ヲ南方及ヒ東南ニ退却セシメタリ然レモ土軍ノ最左翼

皇太子ノ軍
四角要塞ニ
向テスル源
動

諸地方軍隊
ノ景況

「ノウイバザール」(「アルバニ」ノ北部)ニ於テハ土軍能ク終局マテ「セルビ」軍
Novipazar Albanie Serbie
ニ抵抗セリ

其他已ニ知ル如ク魯國第七第十ノ兩軍團ハ海岸ノ守備ニ任セリ此兵員ハ最初
ニ出師準備セシ魯軍ノ四分一ナリ

第七軍團ノ一部ハ「ダニユーブ」河口ノ守備ニ任ス
Danube

其他ノ部分ハ「哥利木」半島其他上陸シ得ヘキ諸點ニ配布ス

土國艦隊ハ魯國海岸砲台ニ向ヒ二回砲撃ヲ施行セリ然レトモ一モ功ナク暫時
ニシテ去レリ

黒海内ニアル魯國ノ僅少ナル軍艦ハ土國甲鐵艦ニ對抗スル能ハサルヲ以テ悉
ク「オデッサ」及ヒ「ニコライエフ」ノ兩港ニ集合セリ
Odessa Nikolajef

魯國ハ軍用ニ供シ得ル如ク艦裝セシ三個ノ高船ヲ有セリ此高船ハ却テ大功ヲ
奏セリ

此高船ハ「ダニユープ」河口及ヒ「ラツエン」ニ於テ土國艦隊ニ對シ水雷攻撃ヲ爲セリ又「トレビツンド」港ト「コンスタンチノツブル」間ヲ交通スル土國運送船及ヒ高船ヲモ之ヲ以テ妨害セリ

Danube
Razen
Trebizonde
Constantinople

魯軍ハ歐羅巴土耳其ニ使用セシ軍隊ノ外亞細亞土耳其ニモ又タ一大軍ヲ有セリ即チ戰鬥ノ初メニ在テハ十二万ナリシモ後ニ至リ尚ホ之ヲ増加セリ然レトモ眞ニ攻勢ヲ取テ戰鬥セシモノハ此兵員中僅々ニ過キサリシ何トナレハ亞細亞州中自國ニ屬スル住民中ニモ不穩ノ景狀アリシニ因リ之ヲ鎮壓スル爲メ多クノ兵員ヲ要セシヲ以テナリ

魯軍ハ亞細亞土耳其ニ於テモ最初ヨリ攻勢ヲ取レリ然レトモ其希望ハ甚タ多ク且ツ大ニシテ而シテ之レニ使用スル兵員ハ歐羅巴土耳其ニ於テセシト同シク過少ナリシ故ニ七十七年ノ夏ニ於テ此地方ノ魯軍モ亦タ守勢ヲ取ルヲ要セリ加之一二回好結果ヲ得シモ竟ニ土軍ノ爲メニ大ニ敗ラレ一旦自國內ニ退却

亞細亞土耳其
其ニ於ケル
戰鬥ノ大略

セサルヲ得ザルニ至レリ

其後多クノ増援兵ヲ得冬季ニ及テ再ヒ前進セリ

亞細亞土耳其ニ於ケル第一ノ首ナル戰鬥ハ「カルス」トス此戰ニ於テ魯軍ハ勇戰之ヲ奪ヒ大ニ榮譽ヲ輝セリ之レヲ略セシ後チハ直チニ「アルメニ」ノ首府

Kars

Armenie

「エルゼルム」ニ進ムヲ得タリ「アルメニ」ハ當時土耳其領ナリシ

Erzeroum

Armenie

魯軍是等ノ勝戰ヲ爲セシハ魯將ノ功ニ非スシテ「バルカン」山ヲ踰越セシト同

Balkan

シク魯國軍隊カ非常ニ強大ナル行軍効程ヲ有セシニ因ル

「エルゼルム」ニ於テモ酷寒ノ候魯軍ハ攻圍ヲ爲セリ是亦魯國軍隊能ク寒氣

Erzeroum

ニ堪ユルノ慣習アリシヲ以テ之ヲ爲スヲ得シナリ

土軍ハ「エルゼルム」ノ攻圍セラル、ニモ係ラス大兵ヲ以テ適レ「トレビツ

Erzeroum

Trebizonde

ンド」ヨリ船ニ搭シテ「コンスタンチノツブル」ノ難ニ赴ケリ

Constantinople

「エルゼルム」ノ戰未タ決セサルニ已ニ魯土ノ戰爭ハ停止トナレリ然レモ

Erzeroum

「エルゼルム」ハ終ニ魯軍ノ有トナレリ故ニ亞細亞土耳其ニ於テハ歐羅巴土耳其ニ於ケルカ如キ判決ノ戰鬥ヲ爲サスシテ終局トナレリ
亞細亞土耳其ニ於ケル戰鬥モ又タ有益ナルモノ多シ然レモ地圖ナキヲ以テ之ヲ講スルヲ得ス

魯土戰爭ノ結果

魯土戰爭講和ノ全ク局ヲ結シハ伯林ニ於テ魯土及歐州各國ノ會合ヲ爲セシキニアリ

此會合ニ於テ英國及奧國ハ魯國ノ多ク得タル成果ヲ分取セリ魯國ハ之ヲ放棄セサルヲ得サルニ至レリ故ニ魯國ハ多クノ人命ヲ犧牲ニ供シ刻苦シテ經營セシモ其成果ニ至テハ慾望ヲ充タスニ足ラス唯亞細亞地方ニ於テ僅ニ境土ヲ廣メシト「ダニユーブ」河口ニ於テ前年「哥利木」ノ役失ヒシ土地ヲ回復セシノミ土國カ魯國ニ拂フヘキ償金ノ如キハ今日ニ至ルモ未タ終ラズ是レ土國ニ金ナキカ爲メナリ而シテ魯國ニ於テモ亦大ニ財政ニ困ム現ニ戰爭前魯國ノ「ルー

ブル」(通貨)ハ全價ヲ有セシモ戰爭後ニ於テハ其三分ノ二ニ値スルノミ如此景況ナルヲ以テ魯國人民一般ニ不平ヲ抱クハ又巴ヲ得サルナリ英國奧國ノ此談判ニ關涉セシカ爲メ幾分カ土國ニ利益ヲ與ヘシヤト云フニ決シテ否ラス土國ハ一モ利スル所ナキナリ之レニ反シ土國ニ信親ナル諸國ハ劍ニ血ヲトスシテ大ニ各自ヲ利スルヲ得タリ即チ左ノ如シ

先キニ土國ノ藩屬タリシ「ルーマニ」及ヒ「セルビ」國ハ獨立シ「ブルガリ」ハ新國ヲ建ツ
Roumanie
Serbie
Bulgarie

奧國ハ「ボスニ」及ヒ「ヘルセゴウヌ」ヲ占領シ英國ハ「シール」島ヲ占領ス又英國ハ其後ニ至リ「エヂプト」ヲモ占有セリ
Bosnie
Hercegovina
Chypre

佛國ハ「チュニス」ヲ占ム
Egypte
Tunis

希臘國ノ如キハ一モ此事件ニ關涉セサリシモ土國ノ最南部ニ於テ「ケルキラ」島及ヒ「テッサリー」ヲ奪略セリ
Thessalie
Kerkyra

エ7E-87

是ニ因テ此ヲ觀レハ魯國ノ勝利ハ自己ヲ利セスシテ他國ヲ益セシモノナリ實
ニ勞シテ功ナキモノト謂フヘシ矣

(終リ)

終